



一千八百七十七年  
日本内國運輸ノ性質及ニ費用ニ關スル英國領事報告

大藏省  
翻譯課

4066





114  
A2824



天正十一年四月  
環侯爵邸寄

峰源次郎 譯

ノ報告  
十八百七十七年日本内国運輸ノ性質并ニ費用ニ付テ

別紙ノ通り拙者後廻章ヲ以テ日本内国運輸ノ性質并ニ運賃入  
費ノ報告致候様在日本英國皇帝陛下ノ領事各員ニ相達置候處  
今其報告(次條ニ記載ス)ヲ得タルヲ以テ之レヲ閣下ニ進呈スル  
ノ先榮ヲ有ス蓋シ此報告ハ随分出版公布ニ適シ閣下ニ於テモ  
政度出版公布ニ適セリトノ思召可有之存候

右領事報告ノ外猶ホ右同様ノ主意ニ於テ一個ノ記臆昏ヲ相添  
申候此記臆昏ハ当公使館ニ於テ日本各記官助役ナルアスト  
氏ノ編成ニシテ該各領事報告中ニ列序スル諸事項ノ要領ヲ總  
括概論スルモノナリ然リト雖モ簡畧ニ過キス固ヨリ又夕鑿冗



況ニ夫セス警簡ノ中度ヲ得タレハ拙者ノ所存ニ於テハ閣下此  
記憶昏ヲ御覽圖相成候ハ、道路及ヒ此他通信ノ諸方法ニ於テ  
其現今ノ狀況ヲ觀ルニ充分致シ可申候得ハ別段クトクト數キ  
長文ヲ呈シ高覽ヲ煩シ奉ルニ及ハサル様相考候

然レハ拙者儀熟思候処日本ニ迄來其内國運輸ノ方法即チ水陸  
舟車人馬ノ都合宜レカラサルヨリシテ送テ其運賃高價ナレハ  
國ノ内部ヨリ海港ニ荷物ヲ運送シ利益ヲ受クルヲナキカ故ニ  
自然内部ノ物産ヲ興ス能ハサレハ日本政府ハ現今コレカ改良  
ヲ企テ銳意其成效ヲ希望スルアルヲ信スルナリ又夕馬車通行  
ニ適スル新道築造ヲモ其考按中ナルト是又夕右ニ添テ申進レ  
置度候

抑モ日本政府道路改正ノ事ハ拙者儀屢々日本政府ノ意向ヲ茲  
ニ誘導致セシ詎ニ御望候然レハ此後道路改良完全ノ日ニ至リ

テ右報告致シ候ハ、拙者ニ於テ誘導ノ微志空シカラス實ニ忻  
喜ノ事ニ可有之存候拜具

一千八百七十七年十月五日在江戸  
ハイレ、エス、パークス印

デルビー候閣下



別紙第一

在日本英國皇帝陛下ノ領事各負ヘノ廻章(サー、ハレレ、  
エス、パーク、ズヨリ)

日本内國ノ運輸業ニ其入費及ニ其海運陸運ボノ方法其他運輸  
時日ボ一切ノ事項ヲ調査スルニ於テハ其事頗フル艱難ナラサ  
ルヲ以テ是下各位ノ御助力ヲ要請セサルヘカラサルナリ  
日本内國運輸ノ状態事情ハ其國郡ニ後テ固ヨリ種々様々ニレ  
テ一轍ニ帰セサルヘキカ故ニ成ルヘキ丈ケテ手廣ク其状態事情  
ノ調査ヲ得ント是レ拙者ノ希望セサルヲ得サル所ナリ故ニ請  
フ在日本英國皇帝陛下ノ領事各位右拙者ノ主意ニ依リテ細大  
網羅御報道有之度是レ拙者ノ望ミナリ  
拙者ノ所存ニ於テハ右ノ調査ハ此日本國トノ貿易上ニ於テ其

關係スル所固ヨリ鄭重ナルハ是下各位ノ既ニ御承知ナレハ今  
更何カト噴々表指スルノ無用ハ贅言ト被存候又々調査上ニ於  
テ要用ナル達シ昏類及ニ通知ヲ得ルトニ於テ領事ノ副官タル  
モノ其正官ヲ補佐スル固ヨリ相当ノトタルヘキハ今更改メテ  
達スルニモ及ハサルト被存候

各位御調査ノ節ハ日本船及ニ其端舟ノ沿海運輸ノ入費御取調  
有之度又々該沿海運輸ニ於テノ日本船ノ代リニ外國形ニ操遣  
セシ蒸氣船及帆走船ノ個數ハ何程ナルヤ是レ又々御調査有之  
度希望候也

借テ此主意ニ於ケル各位御調査ハ御便宜次第成ルヘキ丈ケテ急  
速出来成就致候様致度其訳ハ一千八百七十六年分ノ領事報告  
ノ附録トレテ右御調査ノ通知昏ヲ記載致度存候此段各位ニ相  
達候也



一千八百七十七年五月十一日在江戸

ハートレー、エス、ボークス印

在日本

英国皇帝陛下ノ領事各位

別紙第二

在函館領事ゴーステンヨリカリ、ハートレー、エス、ボークス

ハノ上申文

五月十一日附ヲ以テ閣下御廻達各御下付相成御下命ノ趣委細  
 敬承致候然レハ日今帝國ノ此地方ニ在テ高賣貨物ノ大荷物ト  
 小荷物トナ向ハス其海陸兩様共国内運輸ニ関レ種々取調ヘ候  
 必今其調査出来候故コレヲ閣下ニ進呈スルノ先榮ヲ有ス  
 借テ陸路ニ於テハ諸貨物皆馬背ニ駈レテ運輸ノ駈賃ハ道路ノ  
 形状ニ後テ此ヲ詳説スレハ山峻ヲ跋ムカ或ハ平野ヲ通スルカ  
 又ハ善ク修繕セシ道路カ或ハ海瀨砂際ニ沿フタル道路カ其形  
 状ニ後フナリ一里ニ付キ五セヨリ十セノ差違アリ  
 又夕小包物或ハ貨幣ノ陸路運輸ニ付テハ日今人ニ在テ種々ノ



規則アリ此規則ハ拙者ヨリ申込ニ置候故目今拙者ノ為ニ取調  
中ナル故右出来次第直様上呈可致候最モ此回ノ上申昏ト同一  
ニ進呈致シ度候得共此上申昏迄引致候テハ不都合候間不及具  
候

本港ヨリ海路及ヒ沿海ノ運輸ヲ為スニハ次條ノ項款ニ送テ取  
扱フヲ得ヘシ(別紙第三ニ記載スル表ヲ見ルベシ)

第一

函館ヨリ青森ニ至タル

第二

函館ヨリ小樽ニ至タル

第三

函館ヨリ根室ニ至タル

第四

函館ヨリ新潟ニ至タル

次表ノ表面(第三別紙ノ表ナリ)ニ於テ左ノ如ク掲載セリ

第一

右雙方面地間ノ海上ニ於ケル其海上里程ノ距離ナリ

第二

普通蒸気船航海時間ナリ但シ非常火急ノ航海ハ此限ニ非  
ラス

第三

大荷物ノ商賣貨物共ニ小荷物ノ船賃ハ共ニ時ニ由リテ高  
低アリテ一様ナラス蓋其高低スル所以ハ船主カ荷物請取  
ヲ美諾スルト否ラサルトニ由ルナリ即チ積送ルヘキ荷物  
ノ多寡ニ從テ生スルナリ



第四

塔舟賃ハ唯第一ボノミナリ而シテ食事料ハ此内ニ算入セ  
ス然レ乘込ニ上陸共其舟船迄ノ小舟ハ海面風波ナルト平  
穩ナルトニ関セス雙方面地共ニ其賃銀ハ拂フニ及ハサル  
ト但シ其乘込ニ上陸共ニ小舟ノ中ニテハ人々皆積荷物ノ  
間ニ充寔心坐卧スルヲ得ヌ始終直立スルナリ

日本形ノ舟ハ大小共ニ其運輸ノ為ニ舟賃ノ規則アルヲナレ船  
主ハ一艘ノ船ニ種々各人ノ離レ荷物ヲ請取ラカルヘシ即チ船  
一艘借り切りニ非カレハ船主ハ其船ヲ運輸ニ供セサルナリ然  
レハ一人或ハ會社ノ名ヲ以テ船一艘借り切りヲ得ヘキナリ而  
シテ其賃銀ハ双方ノ示談ニ由リテ決着シ敢テ一定ノ價格アラ  
サルヲナリ

日本ノ外國貿易開港以來日本形ノ船舶ハ段々減少シテ其代リ

ニ外國形ニ模倣製造シテ日本ノ國旗ヲ揚タル蒸氣船並ニ帆走  
船ヲ以テ運輸ニ使用セリ

一千八百六十一年ニ於テ拙者今港ニ在リシ時ハ冬月ノ間日本  
形ノ船舶ノ碇泊スルモノ八百艘ヨリ一千艘ノ多キニ至レリ但  
シ右ハ冬分海上ノ風波ヲ恐レテ出帆シ得ヌ萎縮滞在スルモノ  
ナリ然ルニ昨冬ハ該港ニ碇泊スルモノ二百艘ヨリ三百艘マデ  
ニ過キカリレナリ然リ而シテ該港ニ於ケル十六年以前ノ内國  
貿易ハ現今ノ如ク其旺盛スルアルヲ見サリレナリ  
昨年ト前數年間トノ對照ニ於テ日本形ノ船舶ノ出入スル艘數  
ハ一見セシ所ニテハ差異可有之存候然シ昨年分ノ外ハ拙者其  
表目ヲ得能ハサレハナリ其昨年分ノ表目ハ左ノ如シ

入港セレ日本形ノ船舶

二千五百九十一艘



此積高石数五十二万五千百五十二石ナリ  
出港セシ日本形ノ船舶

二千五百十七艘

此積高石数五十六万八千四百二十八石ナリ

五十石以下積高ノ船ハ記載セズ

現今ノ所ニテ日本人ノ所有ニシテ日本ノ国旗ヲ揚ケタル外国  
製造ノ西桅船十二艘乃至十八艘アリ而シテ函館ト日本内地ノ  
北部諸港及ヒ北海道諸港トノ間ヲ往復致居候也拜具  
一千八百七十七年六月五日在函館

アール、ユースデン 印

サ、ハ、レ、エ、ス、パ、ー、ク、ハ、公、閣、下

別紙 第三

一千八百七十七年六月五日在函館

アール、ユースデン 印

第一	自函館至青森
第二	自函館至小樽
第三	自函館至根室
第四	自函館至新

47  
68  
78  
878



函館港  
北部諸港  
間ノ海上  
舟賃表

	距離	航海時間	商賣貨物ノ積運賃		搭船賃
			大荷物 (百石=付キ)	小包 (百斤=付キ)	
	英里	時	圓	錢	圓・錢
第一 自函館至青森	56½	7	45	7½	7 10
第二 自函館至小樽	212	33	60	10	5 00
第三 自函館至根室	284	48	70	12	6 00
第四 自函館至新潟	250	48	70	13	6 50

別紙 第三

一千八百七十七年六月五日在函館

アール、ユーステン印

サ、ハーレー、エス、パーク、エス、公閣下

アール、ユーステン印



通請

証 據 類	通請	
	小 組 (日台通請)	大 組 (日台通請)
其四	其四	其四
01	2/01	2/01
00	2/01	2/01
00	2/01	2/01
00	2/01	2/01

一千八百九十一年六月五日 日本通請

附錄 第三

別紙 第四

在長崎領事フロロウアールヨリカールハールト、エス、パーク  
以下ノ上申文

去月十一日附ヲ以テ日本内回運輸ニ関シ御回達相成候趣謹テ  
 敬承致候即チ今般御回達ノ御主意ニ基キ副領事ウーリ」氏カ  
 輯成セラレレ報告昏ヲ以テ斯ニ拙翰ニ封入シ閣下ニ進呈スル  
 下ノ光榮ヲ有セリ

拙者儀右ウーリ」氏ノ報告昏ヲ按查致シ候处拙者ニ於テ其  
 報告昏ノ事項大抵謬誤無之事ト存候

又タ右報告昏編輯ニ付テハ諸事取調オ送テウーリ」氏餘程刻  
 苦被致候得ハ閣下ニ於テモ忍ラヌ御満足可有之儀ト存レ候拜  
 具







スレテ其餘ハ大抵山程ヲ通行スルヨリ較ヤ勝レリト云フニ過  
キナルノミ筑後川ハ九州第一ノ河派トス其長流大分縣(豊後)  
ノ日田ヨリ肥前ノ諸(諸)富(富)岳(岳)ニ筑後ノ若津マテ二十里間舟楫ヲ通  
スヘクシテ該兩市ノ中間ニ至テ海ニ入ルナリ此河流ニシテモ  
猶ホ其上流ハ舟楫ヲ通スル實ニ容易トセサル所ナリ日田ヨリ  
中津(津)母(母)スル(ス)リ(リ)若(若)マテ(マ)ノ(ノ)水路ハ(ハ)凡(凡)ソ(ソ)二(二)日(日)程(程)ナ(ナ)リ(リ)此(此)河(河)流(流)ハ(ハ)筑(筑)前(前)筑  
後(後)及(及)ヒ(ヒ)豊(豊)後(後)ノ(ノ)物(物)産(産)運(運)搬(搬)ノ(ノ)為(為)ニ(ニ)ハ(ハ)第(第)一(一)等(等)ノ(ノ)媒(媒)介(介)ナ(ナ)リ(リ)  
若(若)津(津)ト(ト)長(長)崎(崎)ト(ト)ノ(ノ)間(間)ニ(ニ)日(日)本(本)蒸(蒸)氣(氣)船(船)日(日)寶(寶)丸(丸)金(金)華(華)丸(丸)ノ(ノ)二(二)艘(艘)野(野)母(母)ノ(ノ)岬(岬)  
ヲ(ヲ)廻(廻)リ(リ)テ(テ)常(常)ニ(ニ)時(時)日(日)ヲ(ヲ)刻(刻)レ(レ)テ(テ)往(往)復(復)ス(ス)右(右)二(二)艘(艘)ノ(ノ)船(船)ハ(ハ)一(一)ケ(ケ)月(月)ニ(ニ)凡(凡)ソ(ソ)  
十(十)回(回)ノ(ノ)航(航)海(海)ヲ(ヲ)為(為)ス(ス)而(而)レ(レ)テ(テ)一(一)回(回)ノ(ノ)航(航)海(海)ニ(ニ)凡(凡)ソ(ソ)一(一)日(日)ヲ(ヲ)要(要)ス(ス)  
猶(猶)ホ(ホ)又(又)夕(夕)日(日)夕(夕)形(形)ノ(ノ)船(船)モ(モ)右(右)ノ(ノ)海(海)程(程)ヲ(ヲ)航(航)ス(ス)レ(レ)バ(バ)一(一)回(回)ノ(ノ)航(航)海(海)ニ(ニ)凡(凡)ソ(ソ)  
三(三)日(日)或(或)ハ(ハ)四(四)日(日)ヲ(ヲ)要(要)ス(ス)然(然)レ(レ)モ(モ)若(若)シ(シ)天(天)氣(氣)惡(惡)シ(シ)ク(ク)風(風)波(波)ノ(ノ)甚(甚)シ(シ)キ(キ)ハ(ハ)カ  
又(又)ハ(ハ)品(品)物(物)需(需)要(要)ノ(ノ)事(事)アル(ル)ハ(ハ)針(針)路(路)ヲ(ヲ)諫(諫)早(早)ニ(ニ)向(向)クル(ル)ヲ(ヲ)アリ(リ)而(而)シ(シ)テ

此地ヨリ貨物ヲ馬背ニ馱シ永昌矢上ノ諸馭ヲ經テ野母街道(野母街道)ス(押)  
ルニ是(是)レ(レ)又(又)夕(夕)謬(謬)誤(誤)ニ(ニ)シ(シ)ラ(ラ)ノ(ノ)日(日)見(見)峠(峠)ヲ(ヲ)越(越)エ(エ)テ(テ)長(長)崎(崎)ニ(ニ)運(運)輸(輸)ス(ス)ル(ル)ナ  
ルニ是(是)レ(レ)又(又)夕(夕)謬(謬)誤(誤)ニ(ニ)シ(シ)ラ(ラ)ノ(ノ)日(日)見(見)峠(峠)ヲ(ヲ)越(越)エ(エ)テ(テ)長(長)崎(崎)ニ(ニ)運(運)輸(輸)ス(ス)ル(ル)ナ  
リ  
右ノ道路ヲ取レハ諫早ト長崎トノ中間ノ距離ハ唯ハ里ナリ然  
レモ日見峠峻岨ニシテ徑路屈曲峻嶙ナルヲ以テ重荷ノ馬ハ殆  
ント通行スヘカラサルナリ之レニ由リテ此峻岨ヲ避クルニハ  
獨リ迂遠ノ長途ヲ撰取スルアルノミ乃チ大村ヲ經テ彼杵ニ至  
リ此処ヨリ荷物ヲ日弁形ノ船ニ移シ江ノ浦街道(大村ノ内海ノ  
入口ナルウレウ)花ニ洲崎ノ間ナリヲ經テ海路ヨリ長崎ニ達  
スルナリ(押)誤(誤)脱(脱)詞(詞)ア(ア)ラ(ラ)ン(ン)手(手)今(今)暫(暫)ラ(ラ)ク(ク)原(原)文(文)ノ(ノ)終(終)ヲ(ヲ)誤(誤)レ(レ)テ(テ)後(後)考(考)ヲ(ヲ)待(待)  
古ノ迂遠ノ海路ヲ避タル為メニ大ニ長崎時津間ノ道路ヲ改良  
セント企テラレタリ而シテ今ヤ大抵修繕成就トナリタリ然レ



此道路ハ極ク至急ノキニミ通行レテ此他長崎ハノ荷物運  
 輸ハ人皆舟運ノ便ニシテ且ツ運賃下直ナルヲ以テ舟ニテ運輸  
 スレハ該新道ハ左迄ノ公益トモ相成間敷被存候  
 彼岸ヨリ長崎ニテ海路ニテ送ラルヘキ奈ハ一組ニ付キ九ソ唯  
 五弍ノ費用ノミナリ但シ時津ヲ經過スル捷徑ノ運輸ニ由レハ  
 其賃銀ハ彼岸ヨリ時津マデノ舟運賃アルニ由リテ為ニ増額ス  
 ヘシ時津ヨリ長崎ニマテ馬ノ駄賃ハ大抵海上ノ運賃ト同等ナ  
 リ即チ五弍ナリ

運輸ノ便利ヲ因カルニ於テ政府ノ為ニハ時津街道ヲ修繕セシ  
 ヲリモ網場街道ヲ改良アラレ上策ナリレカ如ク被存候ル按ニ  
 此論獨リ諫早ヨリ運輸スルノ便利ヲ為ニ云フモノ如シ夫レ  
 時津街道ノ便利ハ松浦郡ノ物産運輸即チ平戸伊万里唐津有田  
 柄崎野原ヨリカノ荷物運輸ノ為ニ固ヨリ可カラカナルナリ

右網場長崎間ノ道路ハ諫早其他ノ人民ノ為ニ要用ナルノ外ニ島  
 原ヨリ荷物ヲ運輸スル人ノ為ニ大ニ便益ナルヘシ且ツ茂木ヨ  
 リ長崎マテノ街道ヲ改良セハ天草ヨリ荷物ヲ運輸スル商賈ノ  
 為ニモ亦タ便益ナルヘシ  
 ナカッ若津ナヨリ野母岬ヲ廻リテ航行スル長崎マテノ舟賃ハ  
 左ノ如シ

蒸気船上等

二四

同所ヨリ諫早マデ

日本形ノ船

二十五弍

又タ諫早ヨリ長崎マテ八里ノ所人力車ノ賃錢ハ左ノ如シ

人力車

六十四弍大約

筑後川ハ既ニ九州ニ於テ第一等ナルガ此大河ニ垂クモノハ肥  
 後ノ隈川ナリ此河流ハ人舌ヨリ八代マテ十六里間舟楫ヲ通ス  
 ヘシ薩匪暴祭マテハ四艘ノ小蒸気アリテ野母岬ヲ廻リ肥後沿



海ト長崎ノ間ヲ往復セリ其渡海時間ハ凡ソ一日ヨリ日本形ノ  
船ハ三日乃至四日ナリ若シ又夕風波ノ時ニ在リテハ肥後ノ方  
ヨリ野母岬ヲ廻ラヌ茂木ニ着船レ此処ヨリ荷物ヲ上陸セシメ  
陸路ヲ経テ長崎ニ達スルナリ

筑前ノ小隈川ハ天童ヨリ木屋ノ瀬ヲ過キ芦屋ニ至タル迄ハ里  
間舟楫ヲ通スヘシ

薩摩ノ子ヨ直川花ニ日向ノ大淀川亦夕舟楫ヲ通スヘシ  
九州ニ於ケル重立タル街道ハ大概人力車ヲ通スヘシ此故ニ高  
賣貨物運輸ノ為ニ最モ適當ナリ今其重要ナルモノヲ揭示スル

左ノ如シ  
第一  
本街道ハ諸大名京師述職ノ其行列通行ノ為ニ設クルモ  
ノニシ之レヲ第一等トス而シテ長崎ヨリ永昌大村彼杵嬉

野柄崎佐賀田代原田（按スルニ田代原田ハ置レテ經テ小倉  
ク原田田代ニ作クルヘシ）ヲ經テ小倉  
ニ至タル原田ヨリ岐路アリテ福岡ニ至タル而シテ此処ヨ  
リ小倉ニ至タル亦夕好路ナリ

第二

日向ヨリ八代宇土熊奔高瀬柳川久苗米ヲ經テ山家ニ至タ  
ル此処ニテ本街道ト合ス（日向ヨリ以南薩摩マデノ道路ハ  
要路ナリ）

第三

中津久苗米及ヒ日田間ノ道路

第四

柄崎ヨリ唐津及ヒ博多マテノ道路

海岸ニ於ケル中津ヨリ日田マテノ道路凡ソ十三里ナリ而シテ  
昨年二月中津ノ方ヨリ五里日田ノ方ヨリ四里程道路修覆成就



セリ

豊前豊後ノ物産(米、苧、草類、材木、麻、烟草、樟腦、茶、及ヒ木炭)ハ中津ヨリ下ノ関マテ船積シ此処ヨリ大坂へ運輸ス又ク右ノ物産ハ筑後河ヲ下タリ中津(若津ナ)ニ至タリ此レヨリ長崎ニ達スルアリ或ハ又ク之レヲ鶴崎ニ輸リ此ヨリ四国及ヒ中国地方へ運輸スルナリ

筑前肥前及ヒ平戸ノ物産ハ日本形ノ船ニ積込ニ平戸ノ瀬戸ヲ經過シテ平戸ノ相模灘ヲ通行シ松島ニ輸レ此レヨリ長崎ニ達ス  
九州ニ於ケル陸運ノ費用ハ日本自他ノ地方ニ於ケル一般ニ定規ナレ而シテ道路ノ險易状態ニ依テ差異アリ且ツ貨物運輸ニ付キ其要スル所ノ緩急ノ程度ニ依テ差異アリ  
陸運ハ自然ニ海運ヨリモ其費用不廉ナルカ故ニ陸路ヨリ貨物

ヲ運輸スルハ先ツ其運輸ヲ要スル貨物ノ價格如何ニ関シ高價ノモノ、ミヲ以テ陸運ニ付ス

海運ノ場合ニ於テハ其舟運賃ノ勘定ヲ為スニ米ヲ以テ之レカ基礎トス諸港ニ於テ船積ミ役所アリ而シテ其固有ノ税則アリ此税則ハ米運輸ノ場合ト甚ク同様ナルカ如シ自他貨物ノ舟賃ハ其荷物ノ大小或ハ其價格ノ高下ニ由リテ一樣ナラス然レモ是レ雙方ノ示談ニ由リテ取極ムルナリ

高島石炭坑會社ハ高島ヨリ長崎(此間ノ距離四里ナリ)マデ日本形ノ船ニテ運輸スルニ其舟賃石炭一噸ニ付キ二十錢ヲ拂フ舟積入足賃ハ一噸ニ付キ十錢四厘ナリ其舟ニ積込シ石炭ノ整頓手数料ハ一噸ニ付キ二錢五厘ナリ

拙者別紙ニ於テ長崎ヨリ九州ノ重立タル市港ニマデノ舟賃ノ一覽表ヲ附記ス但シ日本人所有ノ外國製造ノ蒸気船及ヒ日本



形ノ船舶ノ舟賃ナリ

日本人所有ノ蒸気船(三菱會社所有ノ蒸気船ハ茲ニ莫入セス)ノ長崎縣下ニアル艘數ハ七隻ナリ此外ニ積高九十噸ノ外國形帆前船アリ

概略ヲ以テ論スレハ物産十分ノ三ハ外國製造ノ船ヲ以テ運輸シ十分ノ七八日本船ノ船ニテ運輸スルナリ

人足乘籠及ニ馭馬ノ賃錢ハ先ツ同等ナリ平坦ノ好路ニ於テ一

個人足ニシテ其肩上一ニ七貫目(五十八磅三分ノ一)ヲ荷負シ一里ニ付キ六匁ナリ乘籠賃ハ兩人ノ人足賃共ニ一里ニ付キ十六匁

ヲ拂ハサルハカラス馬ノ馭賃ハ四十貫目(三百三十三磅三分ノ一)ヲ馭シテ一里ニ付キ十五匁ナルヘシ人力車ノ賃錢ハ一里ニ付キ六匁ナリ

以上ノ通知ハ官報ヨリ得タルモノニ非ラス民間ノ調査ナリ(縣)

廳ヨリノ通知ヲ得ルヲ能ハサルニ由ル)依テ極ク精密ナリトハ

言ヒ難ケレ氏先ツ大差異ノ事ハ有之間數被存候拜具

一千八百七十七年六月十四日在長崎副領事  
タブリウ、工、ウーリー、印



別紙 第六

長崎ヨリ九州ノ重立タル市港ニマデ舟賃表

ダブリウ、ジ、ア、ストーン印

地名	向キ、	リ運輸	長崎ヨ
熊本			反
中津及ニ諸富			反
下ノ関			
博多			
唐津			
平戸			
對馬			
野母崎			
牛津			
榊河			

\* (注) 米百俵ニ凡ソ七噸半ナリ

按ニ中津ハ若津アラン

五二  
 四十一  
 卅二  
 四十  
 卅一  
 卅三  
 五三  
 四十六  
 五十五  
 四十二  
 五十四  
 卅三  
 四十四

大藏省



別紙 第六

長崎ヨリ九州ノ重立タル市港ニマデ舟賃表

ダブリウ、ジ、ア、ス、ト、ン、印

地名	向キノ	長崎ヨリ運輸	概距離 略離	種荷 類物	船船賃 造業賃 外國製	日本形 ノ船賃 ノ船船	搭舟賃
熊本			58 匁	米百俵 <sup>*</sup> 全一担 茶、烟草、植物、蠟 (七十五斤ヨリ九 十斤マデ)ノ包荷	七匁 十五匁 十二匁ヨリ十五匁マデ	六匁 七匁ヨリ八匁マデ	上等二弗五十匁 下等一弗二十五匁
中津及ニ諸富 下ノ関			58 匁	全上 米百俵 全一噸	全上 十四 二弗	全上	下等一弗二十五匁
博多			45	米百俵 全一担 全一噸	十四 二十匁 三弗五十匁	八匁	上等五弗 下等二弗五十匁
唐津			41 匁	全一噸	全上	七匁	
平戸			31 匁	米百俵 全一担 全一噸	九匁 十五匁 二匁	六匁	上等三匁 下等一匁五十匁
對馬			101	米百俵 全一担 全一噸	十五匁 三十匁 四匁	十二匁	
野母崎			7			二匁二十匁	
牛津			36 匁			五匁	
榑河			33	米百俵		五匁	

\* (注) 米百俵ハ凡ソ七噸半ナリ

按ルニ中津ハ若津アラシ



地名	向キ リ運輸	長崎ヨ	概距 略離	種 類	荷 物	船 債	造 蒸 汽	外 國 敷	日 本 形	搭 舟	賃
			里								
瀨高			44								五円
福江(五島)				米百俵		九円					上等三円 下等一弗五十銭
				全一担		十五銭					
				全一噸		二円					
壱岐			48	米百俵							七円
鹿児島			100	全		十五円					
				全一担		三十銭					
				全一噸		四円					
朝鮮(高麗)			150	米百俵							二十円
				全一噸		五円					
				全一担		四十銭					
琉球				砂糖十二担							十五円
自大村城下至長崎			5	米一俵							三銭五厘 十銭
自彼杵至時津			7	全上							四銭 十二銭
自若津至諫早			20	米百俵							六円 二十五銭
自島原枅津至茂木			10	全上							三円 二十五銭
自富岡至茂木			8	全上							三円 二十五銭
自富岡至長崎			18	全上							二円五十銭 二十五銭

長崎ヨ  
 運賃  
 船賃  
 搭舟  
 賃







ニテ出版セシ表類規則類、揭示類、ヨリ蒐集致候。右ハ当地ニ於テ手ニ入ル、一六ヶ敷様相、覚候。故東京ヨリ取寄セ候ニ付キ、之レカ為ニ存外談報告進呈ノ期、延引致候。

猶ホ又、夕批者、氣ノ毒ニ存候。候ハ諸國ノ内部ヨリ、本港ニ高賣貨物ヲ運輸スルハ、此後愈重要ノ關係アルニ至タルハ、シ其時ニ至リテハ、此節ノ報告ノ分ニテハ、實地ノ処、充分間ニ合可申替ノ処無覚、束被存候。此ノニ掛念致候。

然リト、虫、此事項ニ於ケル調査ニ付テハ、其調査ノ為メ、近隣ノ製造所アル地方ハ、一名出張シテ調査致シ候ハ、此度充分ノ調査相届可申儀ニ御望候。拜具。

一千八百七十七年七月五日、在兵庫

工、工、アン子ッスリー印  
 サ、ハ、ロー、レス、パーク、ス、閣下

別紙 第八

ガッビン、ハ、氏報告

甲局部運輸即チ兵庫港ニ神戸近傍ノ運輸  
 次條ノ報告ハ、兵庫縣権令ヨリ、ア、ン、子、ッ、ス、リ、ハ、送付相成候  
 分ナリ

陸運

此件元来ハ、日本文ナルヲ以テ、今コレヲ英文ニ翻譯ス

第一  
 神戸ヨリ諸方ヘノ運輸(陸路)ハ、即チ次條ノ如シ



神戸ヨリ明石ヲ經過シテ姫路マデ運輸ノ人足毎日兩度發程ス

其一日午前六時其二日正午十二時ナリ而シテ其日ノ中ニ姫路ニ達ス

距離二十里(五十マイル)ヲ越カ、ル場所ヘノ運賃ノ割合ハ左ノ如シ

目方百匁ヲ越カ、ル荷物	三匁
全 五百匁ヲ越カ、ル荷物	七匁
全 千匁(壹貫目)ヲ越カ、ル荷物	十二匁

神戸ヨリ淡路ニテノ運輸ハ三日毎ニ一度ツ、ナリ但シ此通路ハ神戸ヨリ明石ニテハ陸ニシテ明石ヨリ淡路ノ岩屋マデハ海上ナリ而シテ此處ヨリ洲本(旧城下或ハ須本ニ作ル)マデ陸ナリ其通行ノ日數ハ三日程ナリ

距離二十里ヲ起カ、ル場所ヘノ運賃ノ割合ハ以上ノ通り同様ナリ

神戸ヨリ大坂マテノ運輸人足ハ毎日兩度ツ、發程ス(其一日午前八時其二日同シク十一時ナリ)而シテ同日ニ大阪ニ到着ス距離十里(二十五マイル)ヲ越カ、ル場所ヘノ割合ニ於テ運賃ハ

左ノ如シ	
目方百匁ヲ越カ、ル荷物	二匁五厘
目方五百匁ヲ越カ、ル荷物	四匁五厘
目方千匁(一貫目)ヲ越カ、ル荷物	七匁

兵庫ヨリ諸所ヘノ運輸(陸路)ハ次條ノ如シ  
兵庫ヨリ大坂マテノ運輸人足ハ毎日兩度ツ、發程ス(其一日午前八時其二日同シク十一時ナリ)而シテ同日ニ大坂ニ到着ス



運輸賃ハ神戸ヨリ大坂ニ到タルト同様ナリ

運輸ハ鉄道ニ由ルモノアリ人力車ニ由ルモノアリ人足ニ由ルモノアリ

猶ホ又々兵庫大阪間ノ運輸ニ於テ一種特別ノ人足アリ此人足ハ大坂ニテノ全距離ヲ通シテ運ブナリ即チ駅所ニテ継キ立ズニ一人ニシテ運送スルナリ其賃銀ハ一里ニ付キ六匁ノ割合ナリ一人ノ人足ニテ七貫目ノ荷物ヲ運ブテ定例トス而シテ大坂迄ノ全程十里ナルヲ以テ運賃六十匁トナルナリ

兵庫ヨリ姫路マデノ運輸人足ハ毎日西度ツ、発程ス(其一ハ午前六時其二ハ正午十二時ナリ)而シテ同日ニ姫路ニ到着ス

運輸賃ハ神戸ヨリ姫路ニ至タルト同様ナリ

猶ホ又々姫路ニ荷物ヲ送クルニハ兵庫大坂間ノ如ク人足ノ手ニ由リテ運輸スルコトアリ而シテ人足一人ニシテ一里六匁ノ割

合ニテ七貫目ヲ運ブナリ兵庫姫路間ノ距離十四里半(三十六匁)ナルカ故ニ其運賃ハ八十七匁トナルナリ

海運

第二

神戸ヨリ大坂及ヒ他ノ場所(海上ノ運輸)ニ至タル積荷及ヒ搭船ニ関シタル定則ハ次条ノ如キ定例ナリ

神戸ヨリ大坂マデ日奉製ノ船毎日出船ス但シ午前十時ヨリ午後三時マデノ間ナリ

註然レ此出船ノ時刻ハ天気ノ様子ニ関係レテ見計ラヘハ

確定ナレ又々日々出船ノ船数ニ定数ナレ然レ此先ツ一通リハ一日ニ四艘若クハ五艘ナリ而シテ其船ノ大小ハ



平均二十四トヨリ五十石積マテナリ積荷船賃ハ千貫目以下ハ四銭ノ割合ヲ以テ拵フナリ但レ手荷物ハ運賃ナシ

二十四トヨリ五十石積マデノ船ニテ神戸ヨリ大坂マテ一艘借切リノ船賃

二四五十ギナリ

註 相当ノ時刻(五時間)ニ到着スヘク仮定セラレタル渡海船

ハ早船ノ名称アリ

右同様ノ船ニテ神戸ヨリ淡路ノ洲本マテ一艘借切リノ船賃

二四五十ギナリ

右同様ノ船ニテ神戸ヨリ播州高砂マテ一艘借切リノ船賃

四四五十ギナリ

右同様ノ船ニテ神戸ヨリ明石マテ一艘借切リノ船賃

二四五十ギ

右同様ノ船ニテ神戸ヨリ播州節磨津マテ一艘借切リノ船賃

五四五十ギ

註 出船ノ時限ハ定規ナレ唯乗客ノ所存通りナリ然レ又夕出船ハ天氣ノ模様ニ由リテ取リ極ムルナリ若シ此

船到着ノ場所ニ於テ一昼夜以上碇泊スル様ノ事アルハ別ニ二四五十ギ程餘分ノ拂ヲ出サ、ルヘカラカルナ

神戸ヨリ大坂マテノ海運

註 此ハ荷船ニシテ何時間ト云フ定時ヲ以テ渡海スヘキモ



ノニ非サルナリ

五十石積ノ船一艘借切リノ船賃

二四七十五匁

八十石積ノ船右同段

三四七十五匁

百石積ノ船右同段

四四七十五匁

百五十石積ノ船右同段

六四七十五匁

出船時間ハ一定ノ定規ナレ但シ此船大坂着船後一昼夜ノ後滞  
船スルヲアラハ每一夜ニ付キ別ニ船賃ヲ払ハサルヘカラサル  
ナリ其割合ハ即チ左ノ如シ

五拾石積ノ船ナレハ  
五十匁

八十石積ノ船ナレハ  
六十匁

百石積ノ船ナレハ  
七十五匁

百五十石積ノ船ナレハ  
八十七匁五厘

神戸ヨリ明石ニ至タル

五十石積ノ船一艘借切ノ船賃

二四二十五匁

八十石積ノ船右同段



三四二十五丈

百石積ノ船右同段

四四

百五十石積ノ船右同段

五四五十丈

神戸ヨリ淡路ノ洲本マデ

五十石積ノ船一艘借切ノ船賃

四四

八十石積ノ船右同段

五四

百石積ノ船右同段

六四

百五十石積ノ船右同段

七四二十五丈

神戸ヨリ播州高砂マデ

五十石積ノ船一艘借切リノ船賃

三四

八十石積ノ船右同段

三四七十五丈

百石積ノ船右同段

四四七十五丈

百五十石積ノ船右同段

六四七十五丈



神戸ヨリ播州節磨津マデ

五十石積ノ船一艘借切リノ船賃

四回二十五弍

八十石積ノ船右同段

五回五十弍

百石積ノ船右同段

六回七十五弍

百五十石積ノ船右同段

八回五十弍

神戸ヨリ讃岐多度津マデ

五十石積ノ船一艘借切ノ船賃

九回

八十石積ノ船右同段

十四五十弍

百石積ノ船右同段

十二回

百五十石積ノ船右同段

十五回

若シ右ノ船着向キニ於テ滞船スルハニハ具別段ノ拂ヲ出サ、  
ルヘカラサルハ多度津ニ於テモ大坂同様ノ事ナリ

河蒸気船ニテ神戸ヨリ大坂マデ運輸スル乗客并ニ荷物ニ関シ  
タル規定ハ即チ左ノ如シ

乗客(上下等級ノ區別ナク)

十五弍



明箱(即チ空箱ナリ)運輸ノ賃錢ハ左ノ如シ

大形 二十匁

中形 十九匁

小形 十匁

世人知ル所ノ長持ノ如キ間大ノ箱モ、運賃ハ五十匁ナリ但  
シ引出レ付キノ箱モノハ三十匁ナリ而掛(旅行籃ハ十五匁ナリ)  
大坂ヘ向テ抜碇セシ蒸気船ノ帰着ニ付テハ一定ノ規則ナシ  
小蒸気船ニ由リテ神戸ヨリ備前ノ岡山マテ荷物ノ運輸及ヒ乗  
客ノ渡海ニ関レタル規則ハ即チ左ノ如シ

上等 一四五十匁

中等 一四二十五匁

下等 一四

明箱運輸ニ関レテハ即チ左ノ如シ

両掛

大形 三十七匁五厘

中形 三十一匁五分ノ一

小形 二十五匁

引出レ付キノ箱

大形 一四五十匁

中形 一四二十五匁

小形 一四

長持

大形 二四



中形  
小形

一四七十五匁

一四五十匁

乗客ノ食料ハ舟賃ニ冥入ス

神戸ヨリ讃岐ノ多度津高松マデ

乗客舟賃

上等

一四七十五匁

中等

一四二十五匁

下等

一四

明箱運送

西掛

大形

五十匁

中形

三十七匁五厘

小形

三十一匁

引出レ付キノ箱

大形

二四

中形

一四七十五匁

小形

一四五十匁

長持

大形

二四五十匁

中形

二四二十五匁

小形

二四

舟積一条ニ関係シタル諸件ハ一ニ大坂及ニ他ノ場所ノ渡海ニ於ケル法則ニ準スルナリ



大坂ヨリ岡山、多度津及ニ高松へ向ケテノ出帆船、定日ハ左ノ如  
 シ  
 何々船ハ何々日ト表示セリ然レモ少クモ一日一艘ハ出帆ス  
 一レ  
 此出帆セシ船ハ午後二時ト午前一時トノ間ニ神戸ニ来港シ凡  
 ソ一時間碇泊ス  
 兵庫ヨリ大坂マデ荷物運輸乗客渡海ニ関シテノ規則ハ左ノ如  
 シ  
 日本形ノ小船兵庫ヨリ大坂マテ毎日午前十時ト午後三時トノ  
 間ニ出帆ス  
 出帆ノ時刻ハ定規ナシ且ツ天気ノ善悪風波ノ難易ヲトシテ出  
 帆ス

乗客ノ船賃ハ六匁二厘五毛ナリ行李荷物ハ十貫目ニ付キ四匁  
 ノ割合ヲ以テ拂フ  
 乗客ノ手荷物ハ無賃ナリ  
 兵庫ヨリ大坂マテ船一艘借切ノ船賃ハ左ノ如シ  
 五十石積 三四五十匁  
 百石積 四四五十匁  
 兵庫ヨリ明石マテ船一艘借切リノ船賃ハ左ノ如シ  
 五十石積 二四五十匁  
 百石積 三四五十匁  
 兵庫ヨリ飾磨マテ船一艘借切リノ船賃ハ左ノ如シ

大坂



五十石積

五十四五十五

百石積

六十四五十五

兵庫ヨリ讃岐丸島マテ船一艘借切リノ船賃ハ左ノ如シ

五十石積

十四

百石積

十二四

兵庫ヨリ淡路ノ洲本マテノ運輸ハ左ノ如シ

兵庫并ニ洲本ヨリ毎日午後ニ人足発程ス

乗客ノ船賃ハ十二弍五厘ナリ荷物ハ十貫目ニ付キ六弍ノ割合

ナリ

五十石積ノ船一艘借切ノ船賃

五十四

百石積ノ船ナレハ

六十四

第三

神戸ヨリ他へ運搬スル海運ニ関係シタル次第ノ項件ハ官報ニ非ラス人民ノ手ヨリ蒐集セシモノナリ

運輸賃

兵庫ヨリ横濱マテ蒸気船ニテ四十ブー卜立方ノ荷物ニ

付キ

四十四

兵庫ヨリ長崎マテ蒸気船ニテ四十ブー卜立方ノ荷物ニ

付キ

二四五十弍



右長崎行ノ船賃ニハ海關稅ヲ算入セス但シ品物ニ依リテ海關稅ヲ拂ハサルヘカラサルモノアルハ此海關稅ヲ算入スレハ此船賃ハ横濱行ノ船賃ト同額トナルヲ往々コレアリ又々横濱長崎共其船積ノ品物ニ依リテハ其運賃オ差異アリ

蒸氣船ニテ神戸ヨリ下ノ関マテ荷物ヲ運輸スルニハ其船賃ノ割合ハ横濱マデノ船賃ノ割合ヲ以テ受取ルナリ但シ荷物ノ多寡種類オニ従テ減額アリ

日本形ノ船ナレハ船賃ハ蒸氣船ノ船賃ノ半額ナリ  
神戸大坂間ニ往來スル川蒸氣船ニテ荷物ヲ運輸スレハ其船賃ハ定價アリ即チ三十ト立方ノ荷物ニ付テ五十トナリ  
但シ荷物ノ種類ニ由リテハ減價スルヲアリ猶ホ又々荷物日方百斤ニ付キハ船ノ割合ニテ運輸スルアリ

日本形ノ船ニテ大坂マテ荷物ヲ運送スルニハ百斤ニ付キ船賃ニ弍弍或ハ三弍ノ割合ナリ  
大坂ヨリ少ナクモ一日ニ一艘ノ蒸氣船阿波ノ徳島へ出船ス且ツ大坂ヨリ隔日ニ讃岐ノ高松多度津及ヒ丸亀へ向ケ蒸氣船出船ス

日本全國ノ總運輸

日本國ノ運輸ノ事ニ於テ次条ノ件々ハ仮令地方ノ局所ニ關係シタル詳細ノ調査ニ非サルモ日本全國通運ノ方法ヲ觀察スルニ不足ナケレハ亦タ無用ノモノニアラサルナリ  
荷物運輸ノ事業ハ重ニ世人ノ知ル所ノ内國通運會社ト稱セラレタル一大會社ノ手ニ出ツルナリ此會社ハ始メ一千八百七十二年六月ニ於テ四個ノ商人ニ由リテ設立セラレタリ當時コレ

大 省



ヲ稱レテ陸運會社ト唱ヘタリ然レハ一千八百七十五年二月ニ  
於テ右ノ稱謂ヲ改メテ内國通運會社ト稱スヘキ許可ヲ得タリ  
而レテ此會社ノ因テ以テ設立セシ諸規則ヲ該社負悞同シテ改  
正シ今日ノ如ク實施セルナリ  
諸荷物ハ此會社ノ手ニ由リテ日本全國何レノ地方ヘモ運輸ス  
ルナリ  
此會社連続ノ期限ハ一千八百七十六年ヨリ十五ヶ年ト定メラ  
レタリ

註然レハ此會社ハ郵便頭及ヒ地方役員ノ可認ナケレハ解  
散スルヲ得サルナリ

此會社ノ資本金ハ十五万円ナリ而レテ一株千五百円ナリ本局  
ハ東京ナリ而レテ日本全國ノ内ニ支局アリ代理人アリ

吉田五十總譯

會社ニ關スル一切ノ事件ハ官府ニ於テ之ヲ總督ス都テ會社ノ  
從僕領等ヲ又云ハ才ノ取結ヒタル契約書ニシテ重要ナル事務ニ關  
スルモノハ之ニ社印ヲ鈐セザレバ其效ヲ有セザルナリ  
會社ノ社員中ヨリ頭取一名及ヒ副頭取一名ヲ選舉シ其在職ハ  
三ヶ年ヲ以テ一期トス但シ右滿期ノ際株主多數ノ承諾ヲ以テ  
三期迄奉職スルヲ得ヘシ頭取ト為ル者ハ少クハ五十株以上ヲ  
所持シ而シテ金額千圓ニ當ル抵當物ヲ差出スヘク副頭取ト為  
ル者ハ三十株以上ヲ所持シ而シテ金額五百圓ニ當ル抵當物ヲ  
差出サ、ルヲ得ス  
會社ノ社員ハ其所持スル株數ニ應シテ該社ニ關スル事件ニ於  
テ相當ノ權利ヲ有スルモノトス例ヘハ一株ヲ所有スル者ハ十  
株ヲ所有スル者ノ權利十分一ヲ有スルニ過キス  
會社ニ生スル利益金及ヒ損失トモ社員ノ所持スル株金高ニ應

七  
歳  
習



資本費

二拾圓迄	拾圓迄	五拾圓迄	五圓迄	金
1	4	108	12	二拾五圓
2	6	124	15	二拾五圓
3	8	170	20	二拾五圓
4	10	228	25	二拾五圓
5	12	270	30	二拾五圓
6	14	358	35	二拾五圓
7	16	400	40	二拾五圓

シテ之ヲ分賦スヘシ故ニ若シ會社ニ損失アリテ資本減少スル  
 中ハ其不足ヲ補ヒ資本元額ニ達スル迄ハ利益金ヲ配當セサル  
 へシ假令其利益金ノ配當ヲ止ムル中ト雖モ臨時急遽ニ貨幣ヲ  
 要スルトアル中ハ各社員ノ株高ニ應シテ其金額ヲ出サシムル  
 ヲ得ヘシ  
 會社ノ總株主表及ヒ勘定表ハ政府ノ検査ヲ經然ル後之ヲ新聞  
 紙ニ載セテ世ニ公告スヘシ  
 會社ノ常式集會ハ毎年四月二十日東京ニ於テ之ヲ開ヘシ臨時  
 集會ハ總株數五分ノ一若クハ五分ノ一以上ニ當ル株主等ノ請  
 求又ハ頭取ノ協議ニ由テ之ヲ開クヲ得ヘシ  
 會社ハ該社ノ社員又ハ役員ニ罰金ヲ課シ或ハ之ヲ貶黜スルノ  
 權利ヲ有ス  
 頭取ト株主トノ間ニ若シ差違ヲ生スル中ハ之ヲ社外ノ者二名



# 通貨ノ運賃表

金高	五圓迄	拾圓迄	二拾圓迄	三拾圓迄	五拾圓迄	百圓迄	毎目拾分 若クハ其分數
距離	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
二十五里以内	3	4	6	8	10	20	1
五十里以内	4	5	7½	10	12½	25	1½
百里以内	6	7	10½	14	17½	35	2
百五十里以内	8	9	13½	18	22½	45	2½
二百里以内	10	11	16½	22	27½	55	3
三百里以内	12	14	21	28	35	70	4
三百里以外	15	18	27	36	45	90	5

會社ハ該社ノ社員又ハ役員ニ罰金ヲ課シ或ハ之ヲ貶黜スルノ  
 權利ヲ有ス  
 頭取ト株主トノ間ニ若シ差違ヲ生スル片ハ之ヲ社外ノ者ニ名



陸地運輸ノ事	三餘圓並	正餘圓並	百圓並	高
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事
陸地運輸ノ事	〇	〇	〇	陸地運輸ノ事

或ハ二名以上ノ仲裁ニ判ニ任スヘシ若シ此仲裁ニ於テ之ヲ了シ能ハサキハ官裁ヲ仰カザルヲ得ス

陸地運輸ノ事

左ニ掲ル表ハ千八百七十五年四月ニ於テ改正シタル内國運輸會社ノ運賃ヲ示スモノナリ

通貨ノ運輸

表此處ニ入ル

五十圓以上ノ金額ハ百圓ノ運賃ト同様ノ割合ヲ以テ之ヲ運送ス但シ通貨百圓ハ重量五十匁ト定ム若シ此重量ニ超過スルハ拾匁毎若クハ其分數毎ニ増運賃ヲ收受スヘシ然レハ封印付ノ包物中ニ入レタル通貨ハ若シ別仕立ヲ以テ運送セシムラ要スル時ノ外假令重量超過スルモ増運賃ヲ收受セザルヘシ但シ別仕立ヲ以テ物品若クハ通貨ヲ送ラント欲スルハ其重量超



過スル丈ケノ増運賃ヲ拂フヘシ  
 物品ノ運送ニ於テ重量五十匁以下ノ品ハ五十匁ノ品ト同様ノ  
 賃錢ヲ收受スヘシ然レモ為替手形及ヒ公債証書ノ如キハ正金  
 ヲ送ル賃錢五分ノ一ヲ以テ之ヲ運送ス即チ五十圓以下ノ金額  
 ハ五十圓ノ割合ニシテ五十圓以上ノ金額ハ百圓ノ割合ヲ以テ  
 賃錢ヲ收受スヘシ百圓ノ金額アルモノハ重量拾匁ト定ム此重  
 量ニ超過スルキハ拾匁毎若クハ其分數毎ニ増運賃ヲ收受スヘ  
 シ  
 通運會社ノ運送スル貨幣ハ該社ノ便宜ニ隨ヒ托セラル、所ノ  
 種類ニ依リ種々ノ方法ヲ以テ届先へ受渡スヲ得ヘシ然レモ別  
 段ノ賃錢ヲ以テ貨幣ヲ托セラレタル片之ヲ届先へ受渡ス別規  
 則ハ時々之ヲ設ルコトヲ得ルナリ

貨物ノ運輸

貨物

一貫目迄	其分數 日以量 過目毎百貫
錢	錢 匁 里 十 其分數 日以量 過目毎百貫
一圓	其分數 日以量 過目毎百貫
圓	錢 匁 里 十 其分數 日以量 過目毎百貫



貨物ノ運賃表

量目	一貫目迄	百貫目迄	ハ其分數 目以工若ク 過目毎百貫
	十里以内	錢 7	錢 2 $\frac{1}{2}$
每十里以上若ハ其分數	5	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$

  

量目	一駄四拾貫目迄		其分數 目以工若クハ 過目毎四貫
	圓	錢	錢
十里以内	1	80	18
每十里以上若ハ其分數	0	15	$1\frac{1}{2}$

段ノ賃錢ヲ以テ貨幣ヲ托セラレタル片之ヲ届先へ受渡ス別規  
則ハ時々之ヲ設ルヲ得ルナリ

貨物ノ運輸



通貨及貨物ノ受渡手数料表

通貨	貨物	賃錢
金高	量目	錢
50圓迄	1貫目迄	1
100〃〃	5〃〃〃	2
300〃〃	10〃〃〃	3
500〃〃	20〃〃〃	4
700〃〃	30〃〃〃	5
1,000〃〃	40〃〃〃	6
千圓以上百圓每若其數每		$\frac{1}{2}$
	四十貫目以上十貫目每若其數每	$\frac{1}{2}$

凡貨物ヲ以テ貨幣ヲ托セシムルニ付先ハ受渡スル規  
則ニ依リテ受渡スルモノトシテ其ノ後ニ  
納付スルモノトシテ其ノ後ニ納付スルモノトシテ



送貨	目	送貨	目
1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10

毎種公算の送貨目録十一ノ目録

表此ニ入ル

左ニ掲ル表ハ通貨及ヒ貨物ノ届先へ到着セシ片之ヲ受渡ス手  
數料ノ割合ヲ示スモノナリ

表此ニ入ル

容量多キ包装物ハ通常賃錢ノ一分ヨリ五分迄ノ割合ヲ  
以テ適宜ノ増運賃ヲ收受スヘシ

磁器硝子其他破壊シ易キ物品ヲ運送スル別段ノ規則アリ

危難請合ハ會社ニ於テ運送スヘキ物品ヲ托セラル、片ニ於テ  
箇々ニ之ヲ為スナリ

通常運賃ノ一分ヨリ五分迄ノ増運賃ハ道路ノ惡シキ片(天氣ノ  
都合ニ依リ又ハ土地ノ泥濘<sup>確</sup>ニ依リ)之ヲ取立ルナリ

破壊シ易キ物品ハ之ヲ堅固ニ包装セザルヘカラス、會社ニ於テ  
運送スヘキ物品ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間ニ之ヲ受取ル

大貨



常 壽 會 庫

圓	圓	圓	圓
100	100	100	100
200	200	200	200
300	300	300	300
400	400	400	400
500	500	500	500
600	600	600	600
700	700	700	700
800	800	800	800
900	900	900	900

若シ物品ノ紛失シタルハ其紛失セシ日ヨリ十五ヶ月間ノミ  
 之カ穿鑿ヲナスベシ。總テ物品若クハ貨幣ノ價格ハ其包裝ノ外  
 面ニ於テ之ヲ明瞭ニ記載セサルヘカラス。若シ包裝セル物品ノ  
 性質ヲ明カニ記載セサルハ其物品ノ損傷スルモ會社ハ其責  
 ニ任セザルヘシ。包裝ノ上ニ其中ニアル物品ノ價格ヲ記載セサ  
 ルモノハ之ヲ雜物ト看做テ取扱フベシ。  
 運送賃錢ハ總テ前拂ト為サバカラス。若シ此賃錢ヲ先拂ト  
 為スハ里程ノ長短ニ從ヒ通常賃錢ノ一分ヨリ一倍迄ノ増賃  
 ヲ收受スヘシ。  
 會社ハ其收受スヘキ賃錢及ヒ運送ノ遲速ニ就テ特殊ノ規則ヲ  
 設ルヲ得ヘシ。該社ノ都合ニ依リ運送スヘキ物品ハ低廉ノ賃錢  
 ヲ以テ之ヲ運送スルナリ。

濕氣、損害、盜難、火災、水害、其他難航ニ就テ物品請負ノ割合表



# 通常請負賃錢表

里 程	元 價	元 價	元 價	元 價	元 價	元 價
	五 圓	拾 圓	貳 拾 圓	三 拾 圓	五 拾 圓	百 圓
	錢	錢	錢	錢	錢	圓 錢
二十五里以内---	6	8	12	16	20	40
五十里以内---	8	10	15	20	25	50
百里以内----	12	14	21	28	35	70
百五十里以内---	16	18	27	36	45	90
二百里以内---	20	22	33	44	55	1 10
三百里以内---	24	28	44	56	70	1 40
三百里以外---	30	36	54	72	90	1 80

設ルヲ得ヘシ該社ノ都合ニ依リ運送スヘキ物品ハ低廉ノ賃錢  
 ヲ以テ之ヲ運送スルナリ  
 濕氣損害盜難火災水害其他難船ニ就テ物品請負ノ割合表



# 特別請負賃錢表

里 程	元 價	元 價	元 價	元 價	元 價	元 價
	五 圓	拾 圓	貳 拾 圓	三 拾 圓	五 拾 圓	百 圓
	錢	圓 錢	圓 錢	圓 錢	圓 錢	圓 錢
二十五里以內--	10	0 24	0 36	0 48	0 60	1 20
五十里以內---	24	0 30	0 45	0 60	0 75	1 50
百里以內----	36	0 42	0 63	0 84	1 00	2 10
百五十里以內--	48	0 54	0 81	1 05	1 35	2 40
二百里以內---	60	0 66	0 99	1 32	1 65	3 30
三百里以內---	72	0 84	1 26	1 60	2 10	4 20
三百里以外	90	1 08	1 62	2 16	2 70	5 40

此表係根據...  
 以...  
 運送...  
 部...  
 運送...  
 物品...  
 依...  
 貸...



計 百圓	計 十圓	計 三圓	計 一圓
100	100	40	28
08	07	02	04
01	00	40	02
07	08	00	18
08	00	08	99
08	10	00	22
04	07	21	00

表此ニ入ル

強盗ノ難ヲ請負フ特別ノ割合

表此ニ入ル

通常ノ請負及ヒ特別ノ請負ニ於テ運送賃ハ孰レノ場合ニテモ先拂ト為スヲ得ス前拂ヲ為スヘシ

特別ノ請負ヲ為ス件ハ會社ニ於テ常ニ其請負フ所ノ物品ヲ検査セザル可ラス

特別ノ請負ヲ為ス場所ハ東京、大坂及ヒ京都ノ三ヶ所ニ限レリトス

會社ハ豫テ前知シ難キ事件ニ因テハ物品運送ノ途中ニ於テ何等ノ遲延ヲ生スルモ其責ニ任セス假令ヒ別仕立ヲ以テ物品ヲ運送セシキト雖モ亦然リ又會社ハ通常ノ運賃ヲ收受シテ請負ヲ為サ、ル物品ニ付テ假令ヒ不意ノ損害アルモ其責ニ任セザ







先キ拂モノ、増運賃表

里 程	運 賃
25里以内	定式運賃 $\frac{1}{10}$
50 " " "	" " " " $\frac{1}{5}$ ( $\frac{2}{10}$ )
100 " " "	" " " " $\frac{3}{10}$
150 " " "	" " " " $\frac{2}{5}$ ( $\frac{4}{10}$ )
200 " " "	" " " " $\frac{1}{2}$ ( $\frac{5}{10}$ )
300 " " "	" " " " $\frac{7}{10}$
300 以外	" " " " 一倍

通運會社地方ノ諸會社ト聯合運漕ノ規則ヲ設ケタリ此規則ニ  
 援レハ物品及ヒ旅行人ハ都テ該社ノ規則ニ從ヒ該社ニ於テ定  
 ムル所ノ賃錢ヲ以テ之ヲ運送スルナリ  
 船中ニ於テ旅行人若シ社則ニ從ハサルハ之ヲ上陸セシメ而



賞 聖 留

		賞 聖 留			
( $\frac{0}{01}$ )	$\frac{1}{0}$	〃	〃	〃	〃
	$\frac{0}{0}$	〃	〃	〃	〃
( $\frac{0}{01}$ )	$\frac{0}{0}$	〃	〃	〃	〃
( $\frac{0}{01}$ )	$\frac{1}{0}$	〃	〃	〃	〃
	$\frac{0}{0}$	〃	〃	〃	〃
	〃	〃	〃	〃	〃

シテ其情由ヲ地方官ニ報告スルヲ得ヘシ

會社ハ旅行人ノ手荷物ノ紛失スルヲアルモ其責ニ任セス若シ  
船ノ甲板上ニ於テ斯ノ如キ荷物ノ紛失セシハ其持主ヨリ探索  
方依頼アルニ於テハ乗合旅行人一同ノ上陸ヲ差留メ而シテ其  
情由ヲ地方官ニ報告スルヲ得ヘシ

會社ハ荷物ノ盜難紛失其他濕氣ヲ受ケ損傷スルハ其責ニ任  
ズト雖モ一切ノ荷物ハ之ヲ堅固ニ包装センヲ要ス若シ人力  
ノ及バザル不意ノ事件ニ由テ荷物ノ損傷紛失スルハ會社ニ  
於テ別段ニ請負ヲ為シタル荷物ヲ除クノ外其償ヲ為サ、ルベ  
シ

會社ニ於テ水運ノ損害ヲ辨償スル方法ハ陸運ノ部ニ記載シタ  
ルモノト同様ナリトス

荷物ノ陸揚ケ船積ニ及ヒ之ヲ預ルハ通常運賃ノ外ニ増賃ヲ



拂フヘシ

會社ハ荷物ヲ陸揚セシ後ニ避ケ難キ不意ノ事件ヲ生スルモ別  
段ニ水火災ノ請負ヲ為シタル荷物ヲ除クノ外其責ニ任セザル  
ヘシ

神戸ニ於テ千八百七十七年七月五日

ジヨン、エーテ、グブ、ブイ、ング (花押)

第九號綴込

領事ロベルソン氏ヨリサー、エーテ、パークス氏エ送りシ書  
簡

拜啓余ハ五月十一日附ノ貴簡ニテ日本ノ内國運輸運賃水陸運  
輸ノ方法及ヒ甲地ヨリ乙地へ運輸ノ時間等ニ就テノ報告ヲ差  
出スベキヲ御依頼ノ趣委細拜承セリ乃チ右事件ニ就テ當地

ノ領事館在勤フオール氏カ記載シタル報告ヲ進呈ス又商法會  
議所へ右運輸ニ關スル報告ヲ要求致シ候ヘ氏該會議所會頭ヨ  
リ會議員ハ右事件ニ関スル報告ヲ編成致シ難シトノ返答書ヲ  
送り越候ニ付此書ノ寫モ本書ニ相添へ貴覽ニ供シ候

當地ノ近傍ニ在ル浦賀港ハ右運輸ニ關スル事件ヲ探尋スルニ  
適當セル場所ニシテ現ニ其近邊ノ産物ヲ貯蓄スル而已ナラス  
沿海諸國ノ産物モ亦貯蓄スルニ由リ相應ノ報告ヲ集メ得ラル  
ヘシト信認致シ候

フオール氏ノ報告ニ記載シタル通運會社ハ横濱ニ於テ一ノ支  
店ヲ有セリ該社ノ荷物請取書ハ猶ホ我カ國商賈ノ取扱ヲ為換  
手形ニ附屬シタル荷物送引狀ノ如ク讓渡ヲ為シ得ベキ手形ニ  
類似致シ候謹言

神奈川ニ於テ千八百七十七年七月十九日



リエツセルロベルトソシ(花押)  
サ、エー、ク、ス、閣下

第十ノ綴込

フオール氏ノ報告書

日本ハ天然ノ地形ニ由テ物品運輸ノ便利ヲ妨碍セラレ、一最  
モ甚シ此妨碍ノ大原由ニ様アリ第一ハ此國ノ東西ニ連亘スル  
高山ハ日本大地ノ中心ヲ占ムルガ故ニ南北ノ交通ヲシテ非常  
ニ困難ナラシメ第二ハ之カ為メ運河ノ造成ヲ妨碍スル是レナ  
リ是故ニ西方ノ沿海ナル土地ノ産物ヲ東方ノ諸港又ハ市場ニ  
運輸スルニハ日本船ヲ以テ日本大地ノ半分ヲ巡航セザレハ達  
スル能ハス

日本ハ此ノ如キ天然ノ不便アレ氏古ヨリ未タ之ヲ除去スルニ

堪ヘタル工藝技術甚タ乏シ故ニ平坦ナル道路甚タ少ナク掘割  
ノ如キモ亦甚<sup>其</sup>數稀ナリトス○日本全國ノ大道ハ即チ東海道中  
仙道等ノ如キモノ是レナリ是等ノ大道ハ専ラ商品運輸ノ為ニ  
スルニ非スシテ必竟行政上及ヒ軍務工ノ便利ヲ計ル為メニ設  
タルモノナリ又是等ノ大道ハ日本大地ノ縦ニ通シ且ツ其中心  
ノ山脉ニ平行スルモノ居多ナルヲ以テ容量多キ物品若クハ多  
量ノ物品ヲ運輸スルニ甚不便ナリ故ニ水運ヲ宜シトス又海上  
ノ運漕賃ハ一層廉價ナレハナリ○右ノ大道ニ次テ現今縣道ト  
稱スル一種ノ道路アリ是等ノ道路ハ古ヘ封建時代ノ諸大名ノ  
創造セシ所ニシテ各其領地ヨリ江戸ヘ往来ノ旅行ヲ便利ニス  
ル為メ設ケタルモノナリ其他一二ノ便道アリト雖モ是等ハ重  
ニ步行旅客カ商業ノ為ニ國道へ出ルノ便路ト為ルニ過キサル  
ナリ○又道路ノ第三等ニ屬スル者アリ之ヲ村路ト稱ス是等ノ



路ハ産物ヲ運輸シ且ツ交通ノ便利ヲ計ル為ニ村費ヲ以テ造レ  
 リト雖モ其造リ方一般ニ粗畧ニシテ峻峻ナル山ヲ通過スル處  
 頗ル多シトス是等ノ村路ハ素ヨリ狹隘且粗畧ナリト雖モ陸地  
 ノ運輸ヲ為ス十中ノ八九ハ則チ此路ノ設アルニ由レリ中央改  
 府ハ是等ノ村路ヲ改良擴張スヘキノ必要ナルヲ熟知スレモ強  
 テ徴收スル高價ノ地租ヲ大ニ減少スルニ至ラザレハ決シテ人  
 民ノ之ヲ改良スヘシト期望スヘカラス今ニシテ之ヲ期望スル  
 モ更ニ効益ナカルヘシ

物品運輸ノ方法ハ道路ノ難易ニ從テ一様ナラサレモ大抵車馬  
 ノ力ヲ用ヰザルヘカラス然ルニ日本ニ於テ使用スル車ハ唯古  
 代ノ牛車ノ一種ニ過キスニ輪馬車<sup>ス</sup>四輪馬車ヲ用フルハ全ク  
 知ラサルナリ全國中物品ノ運送ハ傳馬ヲ用フルヲ常トス然レ  
 モ牛モ亦貨物ヲ負フ獸類トシテ用ヰラル殊ニ山多キ地方ニ於

テ之ヲ用フル者多シ陸地運送者ハ通常通運會社ヲ以テ其魁  
 ルモノトス該社ノ引札中ニ記載シタル貨物運送ノ賃錢ハ即チ  
 左ノ如シ

十里以内	圓	錢	厘
壹貫目(八 <sup>リ</sup> ボ <sup>ン</sup> ト)ニ付	七		
百目ニ付	一	五	
百目以下		五	
十里以上若クハ其分數毎ニ増	同	同	同
壹貫目ニ付	五		
百目ニ付		五	五
百目以下			五
十里以内嵩物ニ付	同	同	同
一駄四十貫目(三百二十 <sup>リ</sup> ボ <sup>ン</sup> ト)ニ付	一	八	〇



四貫目(三十二<sup>ホ</sup>ト)ニ付

十里以上若クハ其分數毎ニ増

一駄ニ付

四貫目ニ付

右賃錢表ノ外ニ貨物届先ノ地ニ於テ之ヲ配達スル<sup>レ</sup>又少々ノ  
手數料ヲ要スルナリ

空箱等ノ如キ容量大ニシテ量目輕ク運送方ノ非常ニ困難ナル  
貨物ハ右賃錢表ノ外ニ一割乃至五割ノ増賃ヲ取立ルナリ

陶器玻璃等ノ如キ破壊シ易キ貨物ハ右賃錢表ノ中ニ之ヲ入レ  
サルニ依リ其品柄ニ付相對ノ約定ヲ為サ、ルヲ得ス

都テ危險ナル物品ハ別段ニ相對ノ約定ヲ為サン<sup>レ</sup>ヲ要ス然ラ  
サレハ會社ハ假令<sup>レ</sup>其物品ノ損傷等アルモ其責ニ任ゼザルベ  
シ

嶮シキ山坂若クハ雪路ノ如キ殊ニ困難ナル土地ヲ運送スル貨  
物ハ右賃錢表ノ外ニ一割乃至五割ノ増賃ヲ取立ルナリ

會社ニ托シテ送ルヘキ貨物ハ常ニ其價格ヲ記載シ通賃モ亦其  
金高ヲ記載スヘシ而シテ會社ハ其包装ノ粗糙ナルヨリ生<sup>レ</sup>タ  
ル損害ヲ償フノ責ニ任ゼス

會社ハ其托セラレタル貨物等ニ付テ何等ノ失錯アルモ其失錯  
ノ日ヨリ十五ヶ月以内ニ辨償ノ要求ヲ貸主ヨリ為サ、レハ會  
社其責ニ任ゼザルベシ

右賃錢表ハ賃錢前拂ノ貨物ニ付テ定ムルモノナリ若シ賃錢ヲ  
先拂ト為ス<sup>レ</sup>ハ里程ノ長短ニ從ヒ右ノ割合ノ外ニ一割乃至一  
倍ノ増賃ヲ拂ハザルヲ得ス

貨物若クハ通賃ハ右ニ記シタル定式運賃ノ外ニ別段相對ノ賃  
錢ヲ以テ別仕立ノ脚夫ニテ運送スル<sup>レ</sup>アルベシ



五圓以下ノ金  
 赤貨 壹圓 貳圓 參圓 肆圓 伍圓 陸圓 柒圓 捌圓 玖圓 十圓

送	程	里
送	25里以内	000
08	"	000
100	"	001
100	"	001
200	"	002
300	"	003
300里以外	按此	003

茶或ハ生糸ノ如キ商品ハ會社ニ於テ其荷作りヲ為スナリ但シ  
 茶ハ一担若クハ二担入りノ木函ヲ以テ荷作りスルヲ常例トス  
 然レ氏貨主ノ好ミニ依リ席ヲ以テ荷作スルナリ  
 紙幣ノ運送賃ハ左ノ表ニ於テ通運會社ノ定メタル割合ヲ見ル  
 べシ

表此ニ入ル

現今通用スル貨幣ヲ甲地ヨリ乙地へ運送スル方法ニ様アリ即  
 チ第一ハ書信中ニ紙幣ヲ封入シテ送ルヲ第二ハ郵便為替ヲ以  
 テ送ルヲ是レナリ但シ郵便為替ノ金額ハ三十圓ヲ限レリ故ニ  
 書信中ニ紙幣ヲ封入シテ運送スル方法ハ之ヲ舊慣ニ據テ為ス  
 ト云フ然リト雖モ驛遞局ノ統計表ニ據レハ郵便為換法ハ漸々  
 人望ヲ得ルニ至リ且ツ此法ハ甚々低キ賃錢ヲ以テ小數ノ金額  
 ヲ運送スルガ故ニ書信中ニ貨幣ヲ封入シテ運送スルノ舊慣ハ



五圓以上拾圓以下ノ金高運賃表

里程	賃錢
	錢
25里以内	4
50 " " "	5
100 " " "	7
150 " " "	9
200 " " "	11
300 " " "	14
300里以外	18

五圓以下ノ金高運賃表

里程	賃錢
	錢
25里以内	4
50 " " "	5
100 " " "	7
150 " " "	9
200 " " "	11
300 " " "	14
300里以外	18

ト云フ然リト雖モ驛逋局ノ統計表ニ據レハ郵便為換法ハ漸々  
 人望ヲ得ルニ至リ且ツ此法ハ甚々低キ賃錢ヲ以テ小數ノ金額  
 ヲ逋送スルガ故ニ書信中ニ貨幣ヲ封入シテ逋送スルノ舊慣ハ



貳拾圓以上三十圓以下金高運賃表

里 程	賃 錢
	錢
25里以內-----	0
50 " " "-----	10
100 " " "-----	14
150 " " "-----	18
200 " " "-----	22
300 " " "-----	28
300里以外-----	36

拾圓以上貳拾圓以下金高運賃表

里 程	賃 錢
	錢
25里以內-----	6
50 " " "-----	7 $\frac{1}{2}$
100 " " "-----	10 $\frac{1}{2}$
150 " " "-----	13 $\frac{1}{2}$
200 " " "-----	16 $\frac{1}{2}$
300 " " "-----	21
300里以外-----	27

未賃

選

選

+

6

15

P

11

+

8



五拾圓以上百圓以下，金高運賃表

里 程	賃 錢
	錢
25里以内	20
50 " " "	25
100 " " "	35
150 " " "	45
200 " " "	55
300 " " "	70
300里以外	90

三拾圓以上五拾圓以下，金高運賃表

里 程	賃 錢
	錢
25里以内	10
50 " " "	12
100 " " "	17 $\frac{1}{2}$
150 " " "	22 $\frac{1}{2}$
200 " " "	27 $\frac{1}{2}$
300 " " "	35
300里以外	45



三命圓正工の圓計高金銀券

送金	里
送	
01	正 里 寸 5
01	〃 〃 〃 〇 5
101	〃 〃 〃 〇 〇 1
100	〃 〃 〃 〇 〇 〇 1
100	〃 〃 〃 〇 〇 〇 〇
00	〃 〃 〃 〇 〇 〇 〇
00	〃 〃 〃 〇 〇 〇 〇

自ラ衰滅シ以テ此法ノ盛大ニ行ハル、ニ至ルハ期シテ待ヘキナリ○郵便為替手形ヲ封入スル書信ハ通常ノ郵便ヲ以テ遞送スト雖モ貨幣ヲ封入スル書信ハ通運會社ニ於テ驛遞局ヲ經テ之ヲ受取モ又ハ其差出人ヨリ直接ニ之ヲ受取モ皆テ該社ノ遞送スルモノトス○金子入書状ニ付テ驛遞局ト通運會社トノ間ニ締結セル約定ハ公示ナキヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ該會社ハ全ク右書状ヲ一手ニテ遞送スルノ特權ヲ有シ而シテ他ノ同業社ハ之ト競争スルヲ能ハザルモノ、如シ

右ノ表ニ記載シタル債錢ハ正金ニ非スシテ紙幣遞送ノ割合ヲ示スモノトス紙幣百圓ノ重量制限ハ五拾又ト定ムルナリ若シ二三枚ノ大札ヲ以テ金額百圓ト為リ實際ノ重量若シ五十又以下ナルモ債錢ノ割引ヲ為スナシ然レモ數十枚ノ小札ヲ以テ金額百圓ト為リテ右ノ定量ヲ超ルモ其超過スル重量ハ定式運



賃ノ工ニ拾又毎ニ一錢ノ増賃ヲ取立ルナリ蓋シ此増賃ハ勿論  
正金ヲ送ラント欲スルモノ、為メニ甚シキ妨碍ヲ為ス一必然  
タリ

為換手形及ヒ公債証書ノ如キハ右ノ表ニ記載シタル賃錢割合  
ノ五分ノ一ヲ以テ之ヲ運送ス然レモ是等ノ金額五十圓以下ハ  
金五十圓ノ割合ヲ以テ賃錢ヲ取立ルナリ

日本ノ水路運漕ハ近年ニ至ル迄全ク日本船ヲ用井テ之ヲ為シ  
タリ是等ノ船ハ七百石乃至八百石積假令ハ百五十噸積ヲ以テ  
最モ居多ナリトス然レモ二百石積ノ小船モ亦其數極テ多シ又  
千二百石積假令ハ二百二十噸ノ如キ大船ハ其數少シトス

右運送船ノ積荷ハ重ニ薪米、水炭其他材木等ノ如キ容量多キ物  
質ナリ○大坂ハ日本帝國ノ船高ヒノ中心ナリ殊ニ米ノ高ヲ以  
テ第一トス○日本ニ於テ澤山ニ米粒ヲ産出スル地方三箇所アリ

リ其二箇ノ地方ハ其地ノ殘米ヲ右ニ記セシ如キ船ニ積ミテ大  
坂ノ市場へ廻送シ又其一箇ノ地方ハ其地ノ殘米ヲ東京へ廻漕  
スルナリ○肥後ノ豊饒ナル地ニ産スル米ハ日本第一ノ良品ト  
考ヘラル而シテ此地ノ米ヲ運漕スル船ハ熊本ヲ出帆シテ九州  
ノ北方ヲ廻航シ天氣ノ都合宜シキハ大凡二十日間ニテ大坂  
ニ達ス然レモ若シ天氣ノ都合宜シカラザル時ハ大坂ニ達スル  
迄四十日間ヲ要スト云フ九州ノ他ノ地方即チ筑前筑後豊前豊  
後ノ如キモ亦米粒ノ多量ヲ産出スルヲ以テ之ヲ米國ノ産出少  
ナキ地方ニ輸出ス而シテ之ヲ九州及ヒ大坂ノ海岸ノ諸港ニ運  
漕スルニハ日本形ノ小船ヲ用フ而シテ此等ノ船數ハ甚タ多シ  
トス此内海ヲ航スル時間ハ六日乃至八日ヲ要ス○下ノ關ハ都  
テ九州ヨリ米ヲ載セテ來ル船ノ重モニ立チ寄ル港ナリ  
日本ニ於テ米粒ノ多量ヲ産出スル第二等ノ地方ハ北西ノ諸州



即チ越前越後加賀及ヒ能登等ナリトス○新潟ハ此地方ノ輸出  
貿易ヲ為ス重モナル市場ナリ然レモ許多ノ日本船ハ敦賀ヨリ  
モ亦輸出物ヲ載セテ出帆ス○新潟ヨリ大坂迄ノ航行ハ日本治  
海ノ貿易ニ於テ最モ長クシテ且ツ最モ困難ナリトス而シテ此  
航行ハ凡ソ九十日乃至半年ノ時間ヲ要ス即チ春季新潟ヲ出帆  
シタル日本船ハ日本大地ノ南端ヲ巡航シテ秋季ニ至リ初メテ  
大坂ニ着港ス最モ迅速ニ走ル日本船ト雖モ未タ曾テ新潟ヨリ  
大坂迄ノ航行ヲ一年ニ二回往復セシテ一ヲ企テシテ無シ而シテ  
實ニ右二港ノ間ヲ一回往復スルニハ凡ソ一年ヲ要スルヲ以テ  
常トス

新潟及ヒ敦賀ヨリ米ヲ積ミテ出帆スル日本船ハ猶ホ熊本及ヒ  
九州ノ東海岸ヨリ出帆スルモノ、如ク直ニ下ノ関ニ立テ寄り  
大坂米市場ノ近キ相場ヲ聞テ其昂低ニ從ヒ或ハ大坂マテ續テ

航行シ或ハ下ノ関ニ於テ其船積米ヲ賣却スルナリ、下ノ関ハ日  
本ノ米商ニ就テハ實ニ大坂米市場ノ表門ト看做モ可ナリ又右  
日本船ハ時ノ相場ニ依テ下ノ関ヨリ直チニ大坂ニ入港シ其船  
積米ヲ賣却セシ後該港ニ於テ冬中碇泊シ而シテ翌年ノ春歸航  
スルヲ常トス

日本ニ於テ米粒ノ多量ヲ産出スル第三ノ地方ハ日本大地ノ北  
東ニ在リ此地方ハ以前出羽奥州ト稱シタル處ナリ、東京へ輸入  
スル米ハ即チ此地方ヨリ輸出シ来ルナリ、仙臺ヨリ東京迄ノ海  
岸ハ港ノ數少ナキト常ニ暴風及ヒ烟霧ノ多キトニ由リ日本船  
ノ航海ヲシテ殊ニ困難ナラシム、此兩地間ニ於テ運漕ノ困難ナ  
ルト入費多キトニ就テ其著シキ的例ヲ示サン即チ東京ニ於テ  
米價一石ニ付五圓ナルハ奥州ノ市場ニ於テ米價ハ一石ニ付三  
圓五十錢ノ上ニ昂ラス是ハ該地ヨリ東京迄凡ソ二百里ノ間、海



岸ノ航行ヲ為ス運送賃トシテ一石ニ付一回五拾錢ノ差引勘定  
ヲ為スガ故ナリ

蝦夷ノ南方重ニ箱館及ヒ松前ノ諸港ト新潟能登及ヒ敦賀ノ諸  
港トノ間ニモ亦日本船ノ通商貿易ハ頗ル盛ナリトス

横濱ハ日本船ヲ以テ貿易ヲナス一甚多カラザル處ナル故右ニ  
掲ケタル諸港ヘ貨物ヲ廻漕スル賃錢ノ取調ヲ為ス一極テ難シ

トス○日本船ノ船頭ハ貨物ノ運賃ニ付テ競争スル一最モ少ク  
而シテ其運賃ノ割合ニ於テハ甚タシキ不同アルモノ、如シ○

新潟ノ大ナル日本船ハ一般ニ富豪ナル米商人ノ所有スル處ナ  
リ而シテ其船ノ持主ト船頭トノ間ニ分ツヘキ利益及ヒ賃錢ニ

就テ通常定ムル所ノ規則ハ左ノ如シ即チ米商人ハ其所有スル  
船ノ積石高五分ノ四ニ至ルマテ米ヲ積入レ残り一分ハ船頭ノ

取集ムル種々ノ荷物ヲ積込ムモノト定メ而シテ古荷物ノ運賃

其所得ノ中ヨリ水夫ノ給料ヲ拂フモノトス又船頭ハ

ハ船頭ノ所得トナリ船頭ハ運賃ヨリ生スル利益ヲ得ルノ多少  
ニ應シテ其船ノ持主ト共ニ難船ニ逢フテ被ル所ノ損失ヲ分受  
ス、日本船ニ於テ危險請合規則等ノ如キモノハ之レナシト雖モ  
日本ノ商人ハ開港場ニ於テ外國人ノ管理スル保險會社ヲ見以  
テ貴重スヘキモノト為セリ

日本船ヲ以テ此國ノ沿海貿易ヲ為スニハ航海ノ時日長クシテ  
且ツ多分ノ費ヘヲ要スルカ故ニ其方畧ノ甚タ不充分ナル一論  
ヲ疾スシテ明瞭ナリ故ニ日本ハ外國ト貿易ヲ開キシ後直チニ  
旧諸大名カ(囊キニ諸種ノ産物ヲ最モ多ク賣却セシ者ナリシガ)  
切リニ外國ノ蒸氣船ヲ購求シタルハ敢テ怪シムニ足ラザルナ  
リ、是等ノ蒸氣船ハ廢藩置縣ノ際ニ方テ政府ヘ之ヲ取上シ者ア  
リ或ハ藩債ヲ償却スル為メ高賣ニ之ヲ賣リ渡セシ者アリ、日本  
ノ沿海貿易ヲ為ス蒸氣船中ニ就テ最モ大ナル船ハ右ノ手續ニ



依テ得タルモノヲ居多ナリトス爾後商賈或ハ私立會社ノ購求  
シタル蒸氣船ハ大概極小形ノモノニシテ專ラ内海ノ航行ヲ為  
スニ止マリ外海ノ航行ヲ為スニ堪ユル者最モ稀ナリ○神戸ニ  
於テ貨物運漕會社ハ其數少ナク凡六アリテ皆此小蒸氣船ヲ所  
有セリ然レ凡余ハ其運賃并ニ其取扱フタル事務ノ數額ニ就テ  
何等ノ統計表ヲモ得ルコト能ハザリキ○横濱ニテ日本船ノ貨物  
運漕ハ更ニ一層運輸ノ便利ナル途開クルニ於テ全ク其跡ヲ絶  
チタリ此便利トハ何ソヤ即チ最初ニハ小蒸氣船ヲ用弁後ニハ  
横濱ヨリ東京ヘ諸種ノ貨物ヲ運送スル為ニ鐵道ヲ設タル是レ  
ナリ

此數年ニ於テ日本商賈ノ企タル事業ハ自國ノ沿海貿易ヲ充分  
ニ改良スヘキ期望ヲ興起セシメタリ即チ東京ニ於テ蒸氣船會  
社ヲ創立シタル是レナリ此會社ハ其數六七アリテ其業ヲ營ミ

シガ三菱會社ノ設立セシ以來一社ツ、漸次ニ廢絶シタリ但シ  
此三菱會社ハ現今日本ニ於テ海上運漕會社ノ巨魁タルモノナ  
リ、此會社ト政府トノ關係ハ從來甚タ秘密ニ涉リテ之ヲ窺ヒ知  
ルコト能ハザリシト雖モ現今ニ至リテハ然ラス政府ハ從來此會  
社ヲ保護シ商業ノ競争等ヲ破却シタレ凡今ヤ此會社ヲ支配ス  
ルコト猶ホ他ノ會社ヲ支配スルト更ニ異ル所ナキハ最早疑フヘ  
カラス、千八百七十六年日本驛遞局長ノ報告ヲ見ルニ其五葉目  
ト二十一葉目ニ於テ三菱會社ノ事ニ就キ政府ノ之ヲ管理セシ  
形情ヲ記載シタリ、歐洲人ノ稱スル公道主義ヲ以テ之ヲ判断ス  
レハ則チ右報告中ニ記載シタル其措置ハ甚タ耻辱ト為ルヘキ  
所為ニシテ公然人ヲシテ之ヲ信ゼシメンガ為メ詳ラカニ表明  
スベキモノニ非ス然ル所以ハ何ソヤ實ニ理ニ悖レル不都合ノ  
主意ヲ以テ數百萬弗ノ價格アル國財ヲ私立會社ニ付與シタル



ハ吾輩ノ最モ信シ難キヲナレハナリ  
 三菱會社ノ業務ハ之ヲ分テ二トス第一ハ諸開港ノ間ニ郵便物  
 及ヒ高ヒ物ヲ運漕スル事第二ハ都テ主要ナル諸港殊ニ外國ト  
 未タ通商ヲ開カザル諸港ノ間ニ於テ日本沿海ノ貿易ヲ為ス事  
 是レナリ

郵便線路ノ蒸氣船運賃ハ左ノ如シ

表此ニ入ル

横濱ヨリ諸港ヘ向ケ蒸氣船ノ運賃表ハ左ノ如シ

表此ニ入ル

右ノ表ヲ見ルハ諸開港場ヘ荷物ヲ送ル運賃ハ郵便船線路ヨ  
 リ右同場ヘ之ヲ送ル運賃ヨリモ稍貴シトス然ル所以ハ他ナシ  
 郵便線路ヨリ送リタル荷物ハ郵便船ノ中ニテ其受渡ヲ為スト

二	噸	毎	一
錢	圓	錢	
六	錢	十	圓
七	錢	十	圓
十	錢	十	圓



	立方一 <sup>フ</sup> ト毎二	一噸毎二	
	錢	圓	錢
横濱ヨリ神戸迄----	6½	2	50
横濱ヨリ下ノ関迄----	7½	3	00
横濱ヨリ長崎迄----	10	4	00

右ノ表ヲ見ルルハ諸開港場へ荷物ヲ送ル運賃ハ郵便船線路ヨリ右同場へ之ヲ送ル運賃ヨリモ稍貴シトス然ル所以ハ他ナシト郵便線路ヨリ送りタル荷物ハ郵便船ノ中ニテ其受渡ヲ為スト



	立方一 <sup>2</sup> 尺 <sup>3</sup> 每=	一噸每=	
	錢	圓	錢
神戶	9	3	60
大坂	10	4	00
四日市	4	1	60
清水	4	1	60
下ノ關	10 $\frac{1}{2}$	4	20
高知	10 $\frac{1}{2}$	4	20
長崎	18	5	20
鹿兒嶋	18	7	20
琉球	25	10	00
伏木	25	10	00
新潟	25	10	00
箱館	15	6	00
八ノ戶	18 $\frac{3}{4}$	7	50
寒澤	12 $\frac{1}{2}$	5	00







別紙第ニ号

鬼頭悳二郎 記

横濱商法會議所議長「イ、ウ、エ、ス、タ、ン、レ、イ」氏ヨリ英國領事「ロ、ベ、ル、ト、ソ、ン」氏ニ送りし書翰

五月十九日付ノ貴翰ヲ以テ日本内国ニ於テ品物運輸ノ費用是ニ右ニ関レ施行ノ方法ホニ付貴下ノ下向ヲ忝フシ即チ同月二十八日付ノ拙翰ヲ送呈シ置キシニ依リ今爰ニ謹テ答ヲ寄セテ以テ貴下ニ報道スルヲ左ノ如シ

当商法會議所ニ於テハ下向ニ應答シ聊貴下ニ補翼スル所アラシト切望シタレ氏何分貴翰ノ趣旨ニ付有用確實ノ報道ヲ貴下ニ送呈スルノ場合ニ至ラス当商法會議所甚ク以テ之ヲ遺憾トナス

抑モ当商法會議所ノ議負中日本内国ニ於テ品物運輸ノ費用其



外ニ付別段美知スルモノ一人モ之レナシ是等当議負輩ノ商業ハ餘儀ナク日本ノ條約諸海港ニ限ラレ、ニ因ルモノトス依テ当高法會議所ノ議負輩ヨリ貴下ニ補翼ヲナシ得ヘキ一法ハ態々日本人ヲ備入レテ以テ有用ノ諸報告ヲ編輯スルノ外他ナシ然レ愈日本人ヲ備入レテ報告ノ編輯ヲ完フスルヲ得タレバトテモ當會議所ニ於テハ其信偽ヲ判定スルノ道ナキカ故ニ其報告ト雖氏未タ確信スヘキモノトハ考ヘラレス然ルニ貴籍ノ趣旨ハ当地ニ在苗セル商人輩ニ取リ頗フル有益ノモノナリ故ニ當會議所ニ於テハ其趣旨ニ付テ貴下ヲ補翼スル能ハカルヲ甚タ遺憾トナス依テ惟フニ貴下ハ官報ニ就テ其報告編輯ニ関シ要用ナル報道ヲ得ルヲ完フスルナルヘシ謹言

千八百七十七年七月四日

於橫濱商法會議所

議長 イ、ウ、エ、ン、ス、タ、ン、レ、ー

在橫濱英國領事宛

大蔵省



別紙第十二号

在新潟英国領事セイムス、ツループ氏ヨリ東京駐劄同回  
公使カ、ハアリ、バアークス氏ニ送りレ報告

五月十一日付ヲ以テ閣下ヨリ差回サレタル回文ノ趣旨ヲ遵奉  
レ今爰ニ当地ノ内国運輸ノ一ニ関シ聊俾見ヲ開陳レテ以テ賢  
覽ニ供ス

凡ソ当地ニ於テハ河船ト海船トヲ以テ運搬スルノ外当港ヨリ  
当港周囲ノ諸地方ニ商品ヲ運輸スルニハ専ラ駟賃馬ヲ以テ彼  
我ニ輸送スルモノトナス

河船ノ本道ニ付テハ余既ニ昨年ノ当港貿易報告中ニ於テ詳悉  
セシヲ以テ今復タ爰ニ贅セズ蓋シ目下ノ状況ニ依レハ水運ノ  
道終ル場所ニハ駟馬運輸ノ路初マルモノトス尤モ如何ナル大  
切ノ商品タリトモ水運ニアラカレハ一品モ新潟ノ市外ニ出テ



ス又市内ニ到来セサルモノトス  
凡ソ越後ノ道路ハ概シテ駢馬ニ依テ往復スルノ外ニハ他ニ来  
往スヘカラサルモノナリ尤モ場所ニヨリ或ハ一層平坦ノ地  
ル所ニハ旅客小荷駢トモ人カ車ニ乗レテ往復スルアリトス又  
二三ノ山道ニ於テハ人夫ヲ使役シテ以テ駢馬ノ運輸ヲ補フモ  
ノアリ譬ヘハ雪国ヨリ米沢ニ至ル山道ノ如キ即チ是レナリ  
旅客小荷駢ノ運輸トモ亦水運ニ係ルモノ少ナカラス信濃川ニ  
ハ河蒸氣船其他帆前ノ和船ヲ以テ運輸ヲナシ自他ノ諸河流ニ  
於テハ唯々帆前ノ和船ヲ以テ運送ヲナスニ過キス  
凡ソ当越後ノ平坦ノ土地ニハ至ル所皆人カ車ノ設ケ在ルアリ  
テ以テ充分ニ駕籠ヲ廢却スルニ至レリ今ヤ山中ト虫氏駕籠ヲ  
見ルハ稀レナリトス  
尤モ人カ車ノ通行レ難キ道路アレハ旅客ハ駢馬ニ乗スルヲ以

テ慣習トナス

今爰ニ別表ニ通テ封入送呈ス其第一表ハ新潟ヨリ当越後中至  
要ノ諸地方ニ至ル迄ノ陸運並ニ河海輸送ノ分トモ商品ノ運  
輸法並ニ其費用ガヲ示スモノニ係ル余亦当地ヨリ東京ニ至ル  
迄ノ運輸費其外トモ水陸ノ分ヲ表中ニ載セリ其訖ハ当地ノ貿  
易ノ性質如何ヲ概算豫定セントセハ此当地ト東京間ノ運輸費  
才其至要ノ基奉トナレハナリ二三ノ外国輸入品並ニ外国市場  
ノ用途ニ供セル物産ノ貿易ニ関シテハ殊ニ然リトス  
別表中東京ニ至ル迄ノ分並ニ新潟縣管内ノ地ニシテ遠隔セシ  
分ハ内國通運會社ノ運輸費ト尋常ノ運輸費トヲ掲ケテ以テ對  
照比較セリ之レニ依テ以テ内國通運會社ノ運輸費ハ尋常ノ運  
輸費ヨリモ一層不廉ナルノミナラス同會社ニテ新潟ト東京ト  
ノ間ニ品物ヲ運輸スル日數モ亦尋常ノ運輸時日ヨリ一層手簡



取ルヲナ視ルニ足ルベシ  
抑モ内回通運會社ノ方々斯クノ如ク夫レ運輸費ノ不廉ナル所  
以ノモノハ他ナレ同會社ニ於テハ荷物亦多寡ニ拘ハラズ其取  
定メ通りノ運賃ニテ引受ルニ因ルナリ然ルニ尋常ノ運輸者ハ  
然ラスレテ一駄ヨリ少ナカラザル量目ノ品物ノ外ハ其豫定ノ  
運賃ニテ引受チカルモノトス  
亦内回通運會社ノ規則ニ依レハ東京ニ至ル迄各宿々ニ於テ品  
物ノ輸送ヲ引継クモノトナス然ルニ尋常ノ運輸者ハ約束次第  
ニテ宿々ニ引継カスレテ東京迄一人ニテ輸送スルモノトス是  
レ内回通運會社ヲ經テ輸送スレハ日數ノ手間取ル所以ナリ  
別表中ニ掲載セル陸運ノ輸送費ハ概シテ二駄乃至三駄以上ニ  
至ラサル品物ニ適用スル割合ナリ故ニ別段ニ條約ヲ取組メハ  
之レヨリ重量ノ商品ハ今一層低廉ノ運賃ニテ輸送スルヲ得

ルモノトス然シ其割合果シテ幾許ナルカヲ精密ニ確知スルハ  
甚ク難シ但シ此運賃低廉ノ一段ハ專ラ東京往後ノ陸運ニ適用  
スルモノナリ  
余顧フニ東京往後ノ品物輸送ヲ業トセル当越後ノ内地ニアル  
商人(例セバ見附駅ノ商人ノ如キモノ)輩ハ自ツカラ條約ヲ取組  
テ以テ其帰り馬ニ乗セテ東京ヨリ木綿糸ノ如キ輕量ノ品物ヲ  
当地ニ運送シ得ルモノナリ而シテ其運賃ハ横濱ヨリ同品物ヲ  
三菱ノ汽船ヲ以テ運輸スルヨリモ低廉ナリトス  
表中記載スル所ノ三菱會社ノ運賃ハ客歲中ノ割合ナリ本年ハ  
西南ノ内亂在ルアリテ全會社ノ汽船多クハ皆戰用ノ為メニ用  
ヒラレタルカ故ニ當港一ノ線路ハ休業ナリレ  
右ニ陳スル運賃ハ同會社ニ於テ其汽船ノ線路ヲ當港ニ設クル  
カ為メニ取定メタル割合ナリトス



第二表ニハ当新潟並ニ水運ヲ以テ当新潟ト連絡ヲ通スル諸市  
 トノ間ニ於ケル旅客運送ノ費用其外ヲ示スモノニ係ル  
 凡ソ当縣内ニ於テハ人力車ニ乘シテ通行スル旅客ハ一里ニ付  
 五匁ヨリ拾毫ニ至リ車代ヲ拂フモノトス又駟馬ニ乘スルハ一  
 里拾匁ニ至リ五匁ヨリ貳匁ノ運賃ヲ拂フモノトス尤モ二三ノ山  
 中ニ於テハ駟馬ノ運賃尚ホ二倍スルモノトス  
 凡ソ水陸ノ旅客トモ目方三貫目(拾八斤四分ノ三)迄ノ小荷駟ヲ  
 無賃ニテ携帯スルヲ一般ノ規則トス事ニ依リ尚ホ此上ニ少々  
 出ツルモ妨ケナレトス  
 信濃川往復ノ川蒸氣船ハ若シ旅客ノ品物ヲ携来ルアレハ運賃  
 ヲ取テ品物ヲ搭載スルヲアリト雖モ僅ニ旅客往復ノ汽船ト稱  
 スルヲ以テ其費ニ當レリトス謹言

千八百七十七年七月三十一日

在新潟英國領事

セイムス、ワループ

在東京英國公使宛







附 録 第 拾 三 号

新潟縣管下ノ重立タル諸地方ト當新潟港ノ間ニ於テ大積ノ商品輸送法并ニ輸送費其外ノ表

諸 地 方	輸 送 法	距 離 元 積リ	輸 送 費	輸 送 日 数 元 積 〃	但 書
		一里ハ (四千三百二十ヤード)	一駄ニ付即チ四十貫目 (ニピコル半)		
新潟ト亀田トノ間(小河)	河船	三里ハ		半日	冬分ハ輸送費ニ割増シ
新潟ト真野トノ間(小河)	同	七里ハ		一日	同
新潟ト葛塚トノ間(同)	同	五里 上リ十五丈 下リ十二丈五厘		半日	同
新潟ト新菜田トノ間(同)	同	十里 上リ二十丈 下リ十五丈		一日	同
新潟ト津川トノ間(阿賀川)	同	十四里 上リ四十五丈 下リ二十五丈五厘		上リ六日 下リ一日	
新潟ト大野トノ間(信濃川)	同	三里 上リ十二丈 下リ六丈		半日	同
新潟ト白根トノ間(信濃川支流)	同	五里 上リ三十二丈 下リ十六丈		一日	△ 鉄道并ニ鉄器ハニピコル半ニ付上リハ十四丈下リハ七十五丈
新潟ト燕トノ間(同)	同	九里 上リ四十八丈 下リ二十四丈		上リ一日乃至二日 下リ一日	同 上リ十八丈下リ九丈
新潟ト三条トノ間(信濃川本流)	同	十里 上リ四十五丈 下リ二十丈		同 同	冬分ハニ割増シ
新潟ト与坂トノ間	同	十三里 上リ五十五丈 下リ二十五丈		上リ二日 下リ一日	同
新潟ト見附トノ間(信濃川左支流)	同	十三里 同 下リ三十丈		同 同	同
新潟ト長岡トノ間(同)	同	十六里 上リ六十丈 下リ三十丈		上リ三日 下リ一日	同
新潟ト小千谷トノ間(同)	同	二十里 上リ八十五丈 下リ四十二丈半		上リ四日 下リ一日半	同
新潟ト十日町トノ間(信濃川大支流)	同	二十六里 上リ四十五丈 下リ六十七丈半		上リ五日 下リ二日	同
新潟ト六日町トノ間(信濃川右支流)	同	三十二里 上リ四十六丈 下リ八十丈		上リ九日 下リ二日	同
新潟ト内野トノ間(信濃川支流)	同	三里 上リ十五丈 下リ七丈半		半日	同

△上下ノ船賃前後セシナラン



續キ

諸地方	輸送法	距離 凡積リ	輸送費	輸送日数 凡積リ	但書
新潟ト増根トノ間 (同)	河船	五里	上リ二十匁 下リ十匁	一日	同
新潟ト稗トノ間 (同)	同	六里	上リ二十五匁 下リ十二匁半	一日	同
新潟ト會津若松トノ間 (會津川)	河船並馬	三十二里	三十六貫目=付(ニロコル四 分一)一圓四十八匁	九日	秋ハ一割増シ 冬ハ二割増シ
同	内國通運會社	三十二里	四十貫目=付(ニロコル半) 六匁	五日	冬ハ二割増シ
新潟ト米沢トノ間	河船並馬兵人足	三十六里	三十貫目=付五圓四 十匁	十日	冬ハ二割五分増シ
同	内國通運會社	三十六里	四十貫目=付	八日	冬ハ二割増シ
新潟ト東京トノ間 (三国街道ヲ經)	河船並馬	八十八里三分	七圓五十匁 米	十日	同
同	内國通運會社	八十八里三分	十圓 米	十三日	同
新潟ト東京若クハ横濱トノ間	海路三菱汽船	-	一トニ付十四乃至十一圓百石=付百 五十四一トニ付二十五匁	五日	冬ハ一割増シ汽船運送セバ
新潟ト米川トノ間	海船	十三里	百石=付(四十貫目即チ二百五 十匁) 八圓		
新潟ト瀨波トノ間 (村上近傍)	同	十六里	百石=付十圓		
新潟ト羽前加茂トノ間	同	三十六里	百石=付二十三圓		
新潟ト羽前酒田トノ間	同	四十二里	百石=付二十五圓		
新潟ト羽後本庄トノ間	同	六十里	百石=付二十八圓		
新潟ト羽後船川トノ間	同	八十二里	百石=付三十九圓		
同	三菱汽船	八十二里	一トニ付四圓 百石=付六十圓	一日以内	同
新潟ト越後寺泊トノ間	海船	十二里	百石=付八圓		
新潟ト越後出雲トノ間	同	十六里	百石=付十圓		
新潟ト今町トノ間 (越後島田近傍)	同	三十六里	百石=付二十二圓		
新潟ト越中魚津トノ間	同	五十九里	百石=付三十圓		
新潟ト越中岩瀬トノ間	同	六十七里	百石=付三十五圓		



續キ

諸地方	輸送法	距離 凡積リ	輸送費	輸送日数 凡積リ	但書
新潟ト布石トノ間 (越中新港)	海船	七十三里	百石=付三十八円		
同	三菱汽船	七十三里	百石=付四十円 一トシ=付三円	一日以内	冬分汽船運渡セズ
新潟ト能登七尾トノ間	海船	八十四里	百石=付四十九円		
新潟ト佐渡浅港トノ間	同	十八里	百石=付十二円		
同	小蒸汽船	.....	東港定運返二十トシ=付三十五円、二十トシ以上一トシ増ス毎二十五圓		
新潟ト佐渡水津トノ間	和船	十六里	百石=付十円		
新潟ト佐渡小木トノ間	同	三十二里	百石=付十五円		
新潟ト敦賀トノ間	三菱汽船	百四十二里	百石=付七十五円 一トシ=付五円	一日半	同
新潟ト箱館トノ間	同	百四十五里	百石=付七十五円 一トシ=付五円	一日半	同

\* 表中掲載セル米印、分尋常ノ輸送運賃(陸路ト河船ト分ト)ニシテ二三駄以下ノ品物ヲ運輸スルノ割合ナリ二三駄以上ノ品物ナレハ今一層低廉ノ運賃ヲ以テ輸送スヘキ約束ヲ特別ニ取組ムヲ得ヘキモトス、内國通運會社ニ於テモ亦同様特別ノ約ヲ設ケテ以テ減價ヲ以テ運輸スルヲアリトス、別紙第十二号ニ就テ參閱スベシ



附録第十四号

新潟往復、旅客河海両道運輸法并ニ運輸費其外ノ表

諸地方	運輸法	距離 凡積リ	運輸費	輸送日数凡積リ	但書
新潟下小須戸ノ間(信濃川)	河蒸気船	一里四十三分 十ノ一 五里	一人ニ付テノ船賃 上リ十二匁五厘 下リ六匁二厘	上リ二時同半 下リ一時半	
同 三條ノ間(同)	同	十里	同二十五匁 同十二匁五厘	上リ六時同 下リ五時同	
同 (同)	河船	十里	同十匁 同八匁	一日	
同 与坂ノ間(同)	河蒸気船	十三里	同四十一匁 同二十匁五厘	上リ八時半 下リ七時	
同 長岡ノ間(同)	同	十六里	同五十五匁 同二十五匁	上リ十三時 下リ八時半	
同 (同)	河船	十六里	同十二匁半 同六匁五厘	上リ三日 下リ一日	
同 六日町ノ間(信濃川支流)	同	三十二里	...	同六匁二厘 下リ二日	旅客ハ長岡上リ上ニ決シテ 船ニテ上ラス
同 小千谷ノ間(同)	同	二十里	...	同二十三匁五厘 下リ一日半	同
同 十日町ノ間(信濃川支流)	同	二十二里	...	同二十七匁五厘 下リ二日	同
同 内野ノ間(信濃川支流)	同	三里	...	同四匁 半日	
同 曾根ノ間(同)	同	五里	...	同六匁 一日	
同 榎ノ間(同)	同	六里	...	同六匁五厘 一日	
同 大野ノ間(信濃川)	同	三里	上リ七匁 同三匁五厘	半日	
同 白根ノ間(信濃川支流)	河蒸気船	五里	同八匁五厘 同四匁八分一厘	上リ六時 下リ三時	
同	河船	五里	同十匁 同五匁	上リ半日 下リ迅速	
同 三條ノ間(同)	河蒸気船	六里半	同十二匁五厘 同六匁二厘五毛	上リ九時 下リ四時半	
同 燕ノ間(同)	同	九里	同十八匁四分三厘 同九匁八分三厘	上リ十二時 下リ六時	
同	河船	九里	同十二匁半 同六匁二厘五毛	上リ一日 下リ半日	



諸 地 方	輸 送 法	距 離 凡 積リ	輸 送 費	輸 送 日 数 凡 積	但 書
新潟ト津川トノ間 (阿賀川)	河 船	十四里	..... 下リ二十五匁	一 日	旅客ニ決シテ船公ニ テ上ラス
同 亀田トノ間 (小河)	同	三里	五匁 冬分六匁	半 日	
同 葛塚トノ間 (小河)	同	五里	上リ十匁 下リ五匁	半 日	
同 木崎トノ間 (同)	同	四里	上八匁二匁 下リ五匁	半 日	
同 新発田トノ間 (同)	同	七里	上リ十二匁五匁 下リ十匁	一 日	
同 真野トノ間 (同)	同	七里	十匁	一 日	
同 佐渡長港トノ間	海 船	十八里	五十匁	一 日	
同	小蒸汽船	十八里	四匁	五 時間	品物ヲ輸送スル時ニ 出資スルノミ
同 羽後船川トノ間	三菱汽船	八十二里	下等四匁	一 日以内	冬分ニ汽船往復セズ
同 箱館トノ間	同	...	同 六匁	一 日半	同
同	和 船	...	三匁至四匁マテ	七 日以内	冬分ニ五拾匁増シ
同 北海道福山トノ間	同	...	三匁至四匁マテ	同	同
同 北海道江刺トノ間	同	...	三匁至四匁マテ	同	同
同 北海道小樽内トノ間	同	...	四匁至五匁マテ	同	同
同 越中布石トノ間	三菱汽船	七十三里	下等三匁五十匁	一 日以内	冬分ニ汽船往復セズ
同 敦賀トノ間	同	百四十五里	下等五匁	一 日半	同







キハ夫ノ有名ナル三菱會社即チ是レナリ  
 凡ソ此ノ諸會社ノ汽船ハ諸開港場ハ勿論其他日本中ノ高峯樞  
 要ノ諸海港ヘ往返スルモノトス僅々數艘ノ西洋形帆前船モ亦  
 此沿海貿易ノ業ニ從事スルアリ  
 左ノ表ハ右ノ諸會社ノ汽船ノ運賃ヲ示スモノナリ但シ其運賃  
 ノ割合時々昇降スルアルハ圖ヨリ論ヲ俟タズ  
 左ノ諸地方ヨリ東京迄三菱會社ノ運賃(但シ受渡レ費ヲモ合セ  
 テ算入ス)

海上距離凡積リ	每尙噸ノ運賃
神戸並ニ大坂ノ西地ヨリ	三百七十里
自三弗六拾四シト	至四弗
南部八戸ヨリ	三百五十里
自五弗五十四シト	至七弗五十四シト
越前敦賀ヨリ	千里
拾五弗	自一弗六十シト
四日市ヨリ	二百十里
至二弗八十シト	

函館ヨリ	五百二十里	六弗
土佐高知ヨリ	三百七十里	自四弗二十シト
至六弗		
駿河清水ヨリ	百二十里	自一弗六十シト
至二弗		
長崎ヨリ	七百五十里	五弗二十シト
鹿兒島ヨリ	七百八十里	自七弗二十シト
至八弗		
新潟ヨリ	七百七十里	十弗
琉球ヨリ	千四拾里	自十弗
至十二弗		
仙臺宮城ヨリ	四百里	四弗八十シト
八丈ヨリ	百六十里	二弗
無人島ヨリ	四百八十里	三弗
下関ヨリ	六百里	四弗二十シト

左ノ諸港ヨリ横濱ニ至ル迄三菱郵船ノ運賃(受渡レ費ヲモ  
 込メ)即チ左ノ如シ

大  
 會



神戸ヨリ	海上距離	每一噸ノ運賃
下関ヨリ	三百五十里	二弗九十セシト
長崎ヨリ	九百九十里	三弗
上海ヨリ	七百四十里	四弗
	千八百一十一里	五弗
左ノ諸地ヨリ東京ニ至ル迄内國通運會社ノ運賃		
	距離	每一噸ノ運賃
大坂神戸ノ西地ヨリ	三百七十里	四弗八十セシト
司	西洋形帆船ヨリ	三百七十里
長崎ヨリ	汽船ニテ	七百五十里
函館ヨリ	西洋形帆船ニテ	五百二十里
石巻ヨリ	同 新	二百七十里
右ノ外尚ホ兵庫大坂ノ西地ヨリ内海ノ諸港迄小形ノ蒸氣船ニ		三弗二十セシト

運輸ヲナシテ以テ奪道ノ副トナスアリ然レモ重モニ旅客ヲ  
 運搬スルヲ以テ其營業ヲ保ツモノトス蓋シ品物ハ小形ノ内國  
 製ノ船ヲ以テ運輸セラル、モノ多キニ居ルトナス  
 尚ホ又數艘ノ蒸氣船長崎ヨリ其近傍ノ諸港ニ往復スルアリ即  
 ち熊奔、若津、博多、平戸、オノ諸港ニ往復スルモノ即チ是レナリ  
 次ノ表ハ左ノ諸港ヨリ長崎ニ至ル迄右オ往復船ノ運賃ヲ示ス  
 モノナリ

	海上里數	每一噸ノ運賃	米一噸ノ運賃
熊奔ヨリ	百二十三里	、、、、、	一弗
若津ヨリ	百二十三里	、、、、、	一弗
博多ヨリ	九十五里	三弗五十セシト	一弗三十八セシト
平戸ヨリ	六十七里	二弗	一弗二十四セシト
對馬ヨリ	二百十四里	四弗	二弗七セシト



鹿兒島ヨリ 二百十二里 四弗 二弗七セント

函館ニ其近傍諸港ノ間ニモ全様汽船ノ往復スルアリ其運賃ハ左ノ諸港ヨリ函館ニ至ル迄即チ次ノ如シ

海上里数 航海時間 米一噸ニ付テノ運賃

青森ヨリ 九十六里半 七時間 三弗十七セント

小樽内ヨリ 二百十二里 三十六時間 四弗五セント

根室ヨリ 二百八十四里 四十八時間 四弗七十二セント

新潟ヨリ 二百五十里 四十八時間 五弗十三セント

月下函館ニ於テハ日本所屬ノカクイ子ル形船内回製造ノモノ十二艘ヨリ十八艘ニ及ブ而シテ此ボノ船舶ハ函館及ニ其近傍ノ北海道諸港其他本州ノ間ニ往復ス夫レ然リ然リト虽此ボノ諸船舶ヲ以テ輸送セシメ分ハ西洋形帆船ヲ以テ輸送セシモノ、内ニ算入スルヨリハ寧ロ和船運輸ノ分ノ内ニ加入セサル

ベカラズ

蓋シ北海道ニ於テハ和船造船ノコトハ同島日本官吏ノ嚴禁スル所ナリト云フヘレ

僅々兩三ヶ年以前ハ日本ノ沿海貿易ハ全ク和船ニ依リテ以テ行ハレタルモノナリ而シテ其和船ナルモノハ運轉シ易ラサルノ船舶ニシテ所謂夫ノ利ヨシク形船ナルハ外人ノ能ク知ル所ナリ

凡ソ和船ハ過半百五十噸積内外ニ止マルモノトス然レモ其内ニハ貳百拾噸積ノ巨大ナルモノモ二三艘アルナリ然ルニ又殊ニ内海其他高浪激波ノ恐レナキ海上ニハ一層小形ノ船舶數艘ヲ使用スルアリ

凡ソ利ヨシク形和船ハ其駛行頗フル悪クシテ航海中實ニ信シ難キ程日數久レキニ渉ルモノトス今試ニ例ヲ引テ之レヲ証セ

大 鐵 船



シニ横濱ヨリ兵庫ニ至ル航路ノ如キハ蒸気船ナレバ三十時間  
ヨリ三十六時間ヲ以テ片路ノ航海ヲ完フスルモノナルニテヨ  
シグ形ノ和船ナレハ到底二十日間ヨリ三十日間以内ニハ片路  
ヲ一航スルヲ得ス往々之レヨリ尚ホ一層久シキニ渉ルヲアル  
ナリ  
和船ニテハ熊本ヨリ大坂ニ至ル迄最モ好天氣ノ時節ト云氏二  
十日間ヲ経カレハ片路ノ航海ヲ完フスルヲ得ス此間ノ航路ハ  
多ク静波ノ内海ナリト云氏尚ホ且ツ然レリ蒸気船ナレハ此間  
ノ航海ヲ六十時間中ニ完フスルヲ得ヘシ  
又和船ヲ以テスレハ新潟ヨリ大坂迄ノ航海ハ実ニ数ヶ月ノ久  
シキニ渉ラサルヘカラス然ルヲ以テ航海季節中一回以上ノ往  
復ヲ完フセンヲ企ツル和船ハ一艘モ之レナシ  
凡ソ此ボノ和船タル大概ハ冬分ノ間決シテ海路ニ航スルモノ

アルナシ以上余カ開陳スル所ヲ以テ凡ソ此類ノ船舶ノ外國製  
ノ船舶ト競争シ堅ク自己ヲ久シキニ保ツアタハガルハ怪シム  
足ラス又前ニ陳スル如ク此類ノ船舶ヲ廢シ大ニ蒸気船ノ代  
用セラルニ至リシモ亦怪シムニ足ラス  
現ニ横濱港ニ於テハ此類ノ和船殆ト跡ヲ絶ツニ至レリト云氏  
長崎ニ於テハ今尚ホ運輸十分ノ七八和船ノ占ムル所トナルナ  
リ蓋シ日本全国ノ割合モ亦タ之レト懸隔甚シカラサルヘキナ  
リ  
凡ソ和船輸送ノ品物中重モナルモノハ分量ノ嵩ミタル商品ナ  
リ即チ米、薪、木炭、木材、肥料用ノ魚類其外諸物品是レナリ而モ其  
輸送品中巨額ニ居ルハ兵庫越後及ヒ奥州ノ如キ米穀産出ノ諸  
縣ヨリ大坂東京ノ如キ人民輻湊ノ都會ニ輸送スル米ヲ以テ第  
一トナス



サテ又北海道ト日本本州トノ間ニ和船ヲ以テ輸送スルモノ巨  
 額ナリ是レ他ナレ北海道ノ魚類ヲ本州ノ米其他ノ製造品ト交  
 換スルニ由レハナリ  
 凡ソ和船ヲ以テ積送リタル船荷ハ之レヲ保險スルアタハスト  
 虽モ其船主ナル者水夫ノ怠慢若クハ不行状ニ依テ損失損害ボ  
 ヲ引起スヲアルキハ船主其責ニ任スルモノトス  
 又和船ノ運賃ヲ確知スルハ至難ナリトス其然ル所以ノモノハ  
 他ナレ往々一人ニシテ船主ト荷主ト兼ヌルモノアリ(米貿易  
 ニ於テハ殊ニ然リトナス)若シ偶々船主ト荷主トヲ一人ニテ兼  
 ガルモノアレバ運賃ハ概テ船主ト荷主トノ間ニ申合ヒ約束ヲ  
 結テ取定ムルモノナレバ約束次第ニテ大ニ昇降スルモノナ  
 リトス  
 全局ヲ以テ論スレハ和船ノ運賃ハ蒸気船ノ運賃ノ大約半ハニ

当ルモノトシテ可ナリ尤モ時トシテハ蒸気船ノ運賃ノ三分ノ  
 二以上ニ及フヲアリト虽モ概シテ半額内外ヲ出ガルナリ次  
 ニ列記スルモノハ和船ノ運賃ヲ示ス割合ナリ但シ右ハ唯甲ノ  
 碇泊所ヨリ乙ノ碇泊所迄ノ分ノミヲ以テ算スルモノニ係ル  
 大阪ヨリ東京迄此海上里數三百六十里ニシテ其運賃即チ左  
 ノ如シ  
 米壹噸ニ付 一弗二十六セント  
 米壹噸ニ付(汽船ナレバ) 一弗六十九セント  
 生糸、木材其他大積ノ商品壹噸ニ付 一弗三十五セント  
 鉄塊、石類、壹噸ニ付 一弗二十二セント  
 大坂ヨリ東京迄八百石積(即チ凡ソ百二十噸)ノ和船ヲ百回外少  
 タニテ備入ル、トナ得ルモノトス  
 寒沢ヨリ東京迄此海上距離二百七十里ナリ其和船運賃ハ左



ノ如シ

米志噸ニ付

四弗三十二セント

但レ石數多キニ隨テ  
運賃ヲ減ス

長崎在苗領事ウレシ氏ノ報告昏付属ノ表ハ長崎ノ和船ト蒸  
船トノ運賃ヲ對照比較セルモノナリ今其表ニ就テ視ルニ和  
船ノ運賃ハ蒸船ノ運賃ノ半額乃至七分ノ六ニ當ルモノトス  
今一層激波高浪ノ患ヒナキ内海ニ諸河流湖水亦ニ於テハ百  
石積(凡ソ十九噸)以下ノ和船ヲ以テ輸送ヲナスモノ實ニ巨額ナ  
リ例セハ兵庫ヨリ大阪迄左ノ割合ニテ和船ヲ雇入ル、  
トモトス

兵庫ヨリ大坂迄(此距離十四里)ノ雇入料

五拾石積ノ船

三弗五十セント

百石積ノ船

四弗五十セント

兵庫ヨリ明石迄(此距離十二里)ノ分

五拾石積ノ船

二弗五十セント

百石積ノ船

三弗五十セント

兵庫ヨリ讚岐丸亀迄(八十八里)ノ分

五拾石積ノ船

十弗

百石積ノ船

十二弗

兵庫ヨリ阿波須本迄(二十六里)ノ分

五拾石積ノ船

十弗

百石積ノ船

十二弗

凡ソ日本国内ニ於テハ河流溝河ノ運輸ノ便甚タ狭キモノトス  
一俣日本回ハ其地形ノ然ラシムル所ニ依リテ巨船ノ航行ニ適  
スル大河一流モ之レナレ偶々荷積船ノ航行ニ適スル河流アル  
モ其數甚タ多カラス

僅々數ヶ所ノ湖水アリト蓋シ現ニ水關ノ設ケ之レナレ蓋シ日



舟人ハ未タ水閘ノ何物タル原理ヲ通曉セサルニ似タリ是ヲ以テ溝河ノ運轉ハ餘儀ナクモ極メテ狭少ナラガルヲ得ス  
船舶ノ航行ニ適スル重モナル諸河流ハ即チ左ノ如シ

日本各州ノ分

奥州北上川

出羽戸島川

出羽酒田川

越後信濃川

上野利根川

東京隅田川

大坂淀川

九州ノ分

筑後国筑後川(四十八里ノ間航行ニ適ス)

肥後玖珠川(三十九里ノ間航行ニ適ス)  
筑前国小玖珠川(十九里ノ間航行ニ適ス)  
薩摩国千ヨウ川  
日向国大淀川

河船ヲ以テ運送ノ物品ハ稍不足ナリトス次ノ諸品ノ如キハ暫ク其見奉ト視做シテ可ナリ

東京ヨリ関宿迄(此間ノ距離大約三十里)

茶、米、木綿、金中(四拾貫目迄) 七セシ卜半

同(大約七噸ニ付) 九ソ 五十セシ卜

東京ヨリ栗橋迄(此間三十五里ノ分)

茶、米、木綿、金中(四拾貫目ニ付) 十二セシ卜半

同(七噸ニ付) 八十二セシ卜

新潟領事ツループ氏ノ報告ヲ以テ信濃川ノ運賃ハ頗フル不慮



ナルトヲ知ルニ足レリ是レ蓋シ信濃川ハ利根川ノ支流ニ比ス  
レハ一層急流ニシテ加之川底ノ浅キニ因ルナリ抑モ利根川ニ  
ハ前番閑宿、栗橋、オノ諸地ト東京トノ間ニ現ニ船舶ノ運輸ヲ營  
ムアリ右ノ間ノ距離日本里十三里即チ之ヲ英里ニ直シテ三十  
一里内外ニシテ一ヶ所ノ運賃ハ二十五セント一ヶ所ノ分ハ三  
十セントナリ是レ一駄ノ荷物ヲ積下ル時ノ運賃ニシテ其積上  
リノ運賃ハ同量目ト同距離ノ所ニテ五拾セントナリ右割合ノ  
中最も低廉ナルモノト云ハ東京ノ運賃ヨリ二倍餘多レトス  
夫レ人工ノ力ニ依リテ日本内國運輸ノ便ノ天然足ラサル所ヲ  
補ヒレハ甚々鮮少ナリトス蓋シ日本ニ是レ迄手廣ク鉄道ヲ開  
カントノ企図ヲ懐キレ<sup>ハ</sup>然リ然リト云ハ現今ニ至ル迄僅ニ二  
ヶ所ノ短線ヲ築造セシニ過キス其一ハ東京ヨリ横濱ニ至ル線  
路ニシテ十八英里ナリ其ノ一週間ノ諸収入七千ドルナリ

八千ドルナリニ至ル但シ右ノ内十分ノ一ハ品物ノ運賃ト見積  
ルベシ其二ハ兵庫ヨリ京都ニ至ル線路ニシテ距離凡ソ四十七  
英里ナリ但シ其収入額ハ東京横濱間ノ分ヨリモ稍少ナレト  
ス  
凡ソ日本諸國ノ大道路ハ重モニ軍略上ノ便否如何ヲノミ願ミ  
テ經營セシモノニシテ通商貿易ノ便益ボハ殆ント顧慮セラレ  
ザリシハ明了ナリ尚ホ之レノミナラス日本人ハ輓近ニ至ル迄  
夫ノ利カダ<sup>ハ</sup>法<sup>ハ</sup>路<sup>ハ</sup>形<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>碎<sup>ハ</sup>石<sup>ハ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>道<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>工夫ヲ知ラザリレカ故ニ輓  
賃ノ物価ヲ以テ其道路ヲ築造スルモノトス依之暴雨ノ後ハ車  
輪殆ト通行シ難キヲ常トス尤モ否ラガルモノハ僅ニ二三道ニ  
過キス

是レ迄現今ノ道路ヲ修繕シ又新道ヲ開カントテ大ニ各地方ノ  
尽カセシヤリト云ハ目下日本國中ニ於テ可ナリノ道路ト稱ス



ベキモノハ只僅ニ小田原ニ至ル迄ノ東海道筋ト其他志賀三ヶ  
所ニ過キス即チ奥州街道ハ宇津ノ宮迄中仙道ハ高崎ニ至ル迄  
ノ道筋是レナリ

諸地ノ道路夫レ斯ノ如キヲ以テ夫ノ人力車(人力車ナル者ハ人  
カチ以テ引ク両輪ノ輕車ニシテ其用旅客ニ限ルモノナリ)ト迄  
來右ノ諸街道ヨリ東京ノ間ニ往復ヲ初メタル數輛ノ馬車ト粗  
造ノ牛引大ハ車トナ除ケバ他ニ如何ナル種類ノ車ヲモ日本ニ  
見ガルト云フベシ亦今ニ運送馬車ナル者ノ設ケ之レナク極近  
來迄ハ凡ソ商品内國ノ運輸ハ皆駟馬ニ係リタルモノニシテ人  
夫ノ運搬ニ係ルモノモアリタレ氏駟馬ニ比スレハ大ニ少小ナ  
リレ

然ルニ現今ニ至リテモ猶ホ駟馬人夫ノ運搬一般ニ行ハル、ア  
リ然リ然リト虽氏今ヤ一人引ノ輕車一才道路ホニ陸統使用セ

ラル、ノ勢ヲ呈スルニ至レリカレバ運送馬車ノ此國ニ流行ス  
ルニ至ルモ遠カラガレベシ  
凡ソ駟馬尋常ノ荷ハ四拾貫目ヲ以テ本馬一疋ノ定度トナス即  
チ英國ノ量目ニ引直シテ三百三十一磅ト四分ノ一ナリ又山回  
下通行ノ荷ハ一層輕量ニシテ十八貫目ヲ以テ輕尻馬一疋ノ定  
度トナス即チ英量百四十九磅ナリサテ又人夫ノ荷ハ七貫目ヲ  
以テ一人ノ定度トナス即チ英ノ五十八磅ナリ  
凡ソ日本全國ニ通シテ陸運ノ過半ハ所謂通運會社ナル日本高  
人ノ一會社ノ占ムル所ニ係ル但シ此會社ニ於テハ凡ソ全國中  
苟モ高業繁榮ノ土地ニハ皆其支店ヲ設置スルアリトス  
此會社ノ組立方法ニ運賃ボニ付テハ「ギツピン」氏ノ手稿<sup>中</sup>詳細之  
レヲ登錄セリト虽氏其運賃丈ケテ左ニ略記スルハ敢テ無用ニ  
アラガレベシ



通運會社ノ運賃即チ左ノ如シ

小包物ノ運賃

十里(二十四英里)以内ハ一貫目ニ付

七セント

十里以上ハ一里増ス毎ニ

五セント

大包物ノ運賃

十里(二十四英里)以内四十貫目(三百三十一磅)ト四分ノ一ニ付

一弗八十セント

十里以上ハ一里増ス毎ニ

十五セント

前番ノ割合ニ依レハ量目拾磅ノ小包物ハ百英里ニ付大約拾  
ルリング内外ニテ運送セラルベシサスレバ此運賃ハ不廉ト云  
フベカラス

然レ此小包物ノ割合ニ比スレハ大包物ノ割合ハ頗フル不廉ナ  
リト云フベシ何トナレバ噸ノ商品ヲ百英里ノ場所ニ送ルニ

ハ殆ト拾封度ノ運賃ヲ払ハザルベカラスサスレバ重量ノ品物  
ハ殆ト運送スベカラザル程ナリトス

横濱市場へ来ル生糸ハ駟馬ヲ以テ既橋ヨリ東京ニ運送スルモ  
ノニ係ル而シテ此間ノ距離二十四里ニシテ其運賃ハ四オキ

ニ付三ドルヲ此五セントトヨリ四ドルヲ此ニ至ル(但レ此間ハ  
通常二日路ノ道程トス)今此三ドルヲ此五十セントナル終産ノ

割合ヲ以テスレハ噸ノ品物ヲ百英里ノ地ニ運送スルニハ四  
十ドルヲ此(即チ英貨八磅)ニシテ四ドルヲ此ノ割合ニ依レバ右

同断ノ距離ニシテ四十五ドルヲ此五十一セント(即チ英貨九磅  
餘)トナルナリ

尤モ私ニ内々約定ヲ取組メハ前番ノ運賃ヨリモ一層低廉ノ割  
合ヲ以テ輸送スルヲ得ルハ固ヨリ疑ヲ容レヌカニルトゾ此ガ英

國ガインチエスタ製ノ品物往々陸路ヲ経テ新潟ノ市場ニ至ル



モノアルト聞陳セシハ実ニ此事ノ相違ナキヲ確証スルノ実事ナリ

函館ニ於テモ亦依廬ノ運賃ヲ以テ輸送スルヲ得ルナリ同港領事云一ステン氏云ク駈馬尋常ノ運賃ハ一里ニ付五セントヨリ拾セントニ至ルト右ノ如ク拾セントトスルモ通運會社ノ運賃ニ比スレバ僅ニ其半額餘ニ過キス

然ルニ之レニ反シテ丸別地方ニ於テハ其土地丘陵勝チナルノミナラス道路悪シキガ故ニ其運賃ハ日本國中他ノ諸國ノ割合シリモ尠割方不廉ナリトス

千八百七十七年十月三日  
ダブリユー、ヂ、アストン



